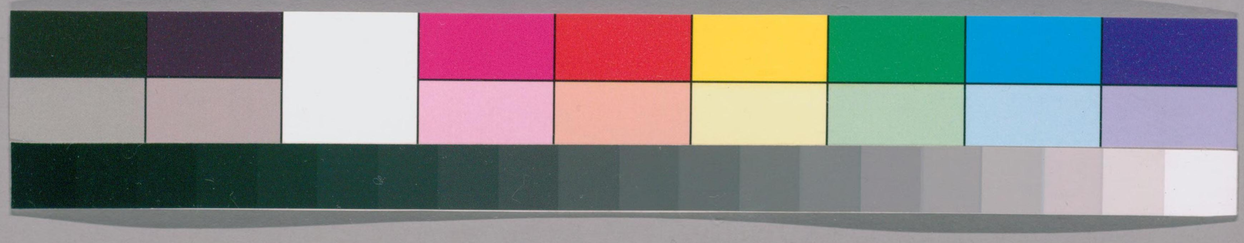


857
47

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

857-47

萬葉集卷第六

長廿七首 短百三十三首 旋頭歌一首 合百六十一首

雜歌

四十四代元正天皇 養老七年癸亥夏五月幸于芳野離宮時笠朝臣金村（カナムラ）作歌一首并短歌

或本（及歌官）三首

車持朝臣千年（チトセ）作歌一首并短歌

或本（及歌官）二首 聖武紀從五位上車持朝臣益天平九年正月辛酉正八位下車持君長谷賜朝臣姓

四十五代聖武天皇 神龜元年甲子冬十月幸于紀伊國時山部宿

帝國圖書館

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

禰赤人作歌一首 并短歌
二年乙丑夏五月幸于芳野離宮時笠朝臣金
村作歌一首 并短歌
山部宿禰赤人作歌二首 并短歌
冬十月幸于難波宮時笠朝臣金村歌一首
并短歌
車持朝臣千年作歌一首 并短歌
山部宿禰赤人作歌一首 并短歌

三年丙寅秋九月十五日幸于播磨國印南
野郡時笠朝臣金村作歌一首 并短歌
山部宿禰赤人作歌一首 并短歌
過幸荷郡島時山部宿禰赤人作歌一首 并短
歌
過敏馬浦時山部宿禰赤人作歌一首 并短
歌
四年丁卯

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

春正月勅諸王諸臣子等散禁於授刀寮時
作歌一首 并短歌

五年戊辰

幸于難波宮時車持朝臣千年作歌四首
歌之注云若笠朝臣金村歌中出也或云車持朝臣千年之作也 私云月六後人作之證

同幸之時膳王作歌一首 一云四年可削

太宰少貳石川朝臣足人歌一首

帥大伴卿和歌一首

冬十一月太宰官人等奉拜香椎廟時帥大

伴卿作歌一首

大貳小野朝臣老作歌一首

豐前守宇努首男人作歌一首

帥大伴卿遥思芳野離宮作歌一首

同卿宿次田温泉時聞鶴喧作歌一首
當改擢駿馬勅使大伴道足宿祢饗帥家日葛井連廣成作歌一首

天平二年庚午 勅遣擢駿馬使大伴道足宿
禰等時勅使大伴道足宿禰饗帥家日葛井
連廣成應聲吟歌一首

養老三年四月丁卯以大外記從六位下白猪史廣成爲遣新羅使
養老四年五月壬辰改白猪史賜葛井連姓

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

冬十一月大伴坂上郎女名兒山作歌一首
同坂上郎女向京海路見濱貝作歌一首
冬十二月太宰帥大伴卿上京之時娘子作
歌二首
大納言大伴卿即和歌二首
三年辛未
大納言大伴卿在寧樂家思故鄉作歌二首
四年壬申

藤原宇合卿遣西海道節度使時高橋連蟲麻呂(宮)作歌一首并短歌
中納言安倍廣庭(卿宮)卿歌一首
天皇賜酒節度使卿等御歌一首并短歌
五年癸酉
超草香山時神社(カミノヤシロ)杜忌寸老(集中称山上憶良大夫作)凡作歌二首
山上臣憶良沉痾之時歌一首
大伴坂上郎女與姪(ヲヒ)大伴宿禰家持(麻呂宮)歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

安部朝臣蟲麿月歌一首

大伴坂上郎女月歌三首

豐前國娘子月歌一首

湯原王月歌二首

勘公卿補任今年二十（此九字未詳案ズルニ右ニ湯原王ノ月哥ヲ是ニツイテ勘ルトアリテ傍ニ書付ケルヲ誤テ加ケルナルヘシ）

藤原朝臣八束月歌一首

市原王宴禱父安貴王歌一首

湯原王打酒歌一首

紀朝臣鹿人（鹿日本紀此上見茂圓之四字ヲ脫スル歟又此字重書有之）松樹歌一首

同麻人（鹿宿禰仲麿）泊瀨河歌一首

大伴坂上郎女詠元興寺之里歌一首

同郎女初月歌一首

大伴宿禰家持初月歌一首

大伴坂上郎女宴親族歌一首

六年甲戌

海犬養宿禰岡麿應詔歌一首

春三月幸二于難波宮一時歌六首

作者未詳歌一首

舩王歌一首

守部王歌一首

山部宿禰赤人歌一首

安部朝臣豊繼歌一首

筑後守葛井連大成遥見二海人釣舩一作歌一首

桉作村主益人歌一首

八年丙子

夏六月幸二于芳野離宮一時山部宿禰赤人應
詔歌一首并短歌

市原王悲二獨子一歌一首

忌部首黒麿恨二友之贈一歌一首

冬十一月葛城王等賜二橘姓一之時御製歌一

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

橘宿禰奈良麿應詔歌一首 (欠字)

十二月葛井連廣成家宴歌二首

春二月諸大夫等宴左少辨巨勢朝臣宿奈麿家歌一首

夏四月大伴坂上郎女越相坂山時作歌一首

十年戊寅

元興寺之僧自嘆歌一首 (ホウシ)

石上乙麿卿配土左國時歌三首 井 短歌 (麻呂)

秋八月右大臣橘家宴歌四首

十一年己卯 (一宮)

天皇遊獵高圓野之時獲遁走堕中小獸擬 (獵宮)

勝宝元年己卯興勝正六位下崔部朝臣真人等言磐余王德宮勾金崎宮御宇天皇御世崔部朝臣男人爲大臣供奉而誤記巨勢男人大臣真人等先祖巨勢男柄宿祢之男有三人星川建日子者崔部朝臣等祖也伊力宿祢輕部朝臣等祖也乎利宿祢者巨勢朝臣等祖也淨御原朝庭定八姓之時被賜崔部朝臣姓然則巨勢崔部雖元祖同而姓別之後被往大臣當今聖運不得改正遂斬脊名之絹永爲無先之氏望請改巨勢大臣爲崔部大臣陳名長代示榮後濫大納言從二位巨勢朝臣奈氏麻呂亦證明其旨於是下知治部依請改正之

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

橘宿禰奈良麿應詔歌一首
十二月葛井連廣成家宴歌二首
九年丁丑
春正月橘少卿井諸大夫等宴弾正尹門部王家宅歌二首
門部王橘文明成後註考正勝宝三年正月賜文成王并南備直人姓
榎井王後追和歌一首
春二月諸大夫等宴左少辨巨勢朝臣宿奈麿家歌一首

続日本紀第三云養和元年九月戊申朔辛巳以昔設宴掘朝臣奈良麻呂家倉四百八十餘巻賜弾正尹三品秀良親王以外戚之財也

夏四月大伴坂上郎女越相坂山時作歌一首
十年戊寅
元興寺之僧自嘆歌一首
石上乙麿卿配土左國時歌三首 并 短歌
秋八月右大臣橘家宴歌四首
十七年乙巳卯
天皇遊獦高圓野之時獲遁走堵中小獣擬

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』 請求記号 857-47
ガラス使用

獻御在所大伴坂上郎女作歌一首

十二年庚辰

冬十月依太宰少貳藤原朝臣廣嗣謀反發
軍幸于伊勢國之時河口行宮内舍人大伴
宿禰家持作歌一首

天皇御製歌一首

冊比真人屋主歌一首 家紀

狹殘行宮大伴宿禰家持作歌二首

姓氏錄河内国諸蕃漢 高丘宿禰出自百濟国公族大玉高之後陸高稼也○神護景雲二年六月庚子内蔵頭○高丘宿禰比良麻呂辛其祖沙門訣近江朝自百濟国歸化父河内

美濃國多藝行宮大伴宿禰東人作歌一首

大伴宿禰家持作歌一首

不破行宮大伴宿禰家持讃久邇京師

十五年癸未

秋八月内舍人大伴宿禰家持作歌一首

高丘連河内歌二首 神龜元年五月辛未正六位下樂浪河内賜姓高丘連

安積親王宴左少辨藤原朝臣八束家之日

内舍人大伴宿禰家持作歌一首

十六年甲申

春正月諸卿大夫宴二(マケキミタチヲ)安倍朝臣蟲麿(カ)家一歌一首

同月十一日登二活道岡一(イクヂノヲカニ)集二(テ)一株松下一(ニ)飲歌二首

大伴宿祢家持

市原王

傷二(ミ)惜寧樂京師荒墟一(ヲ)作歌三首 作主未詳 者宅

悲二寧樂京故郷一(ヲ)作歌一首 并短歌 (アラトユル日本紀)

讃二久邇新京一(ヲ)歌二首 并短歌

春日悲二傷(ミテ)三香原荒墟一(ヲ)作歌一首 并短歌

難波宮作歌一首 并短歌

過二敏馬浦一(ヲ)時作歌一首 并短歌

水枝 三之云ミヅ 繁作云ミツ枝 又メサシアフ

シラミ 今迄ノ帝 知三 兩説ニシテサン 未ノ帝

冲十三河ニ分 ヤケクキヨシ 吾心清シ 神紀

雜歌

元正紀云五月癸酉行幸芳野離宮 丁丑車駕還宮

養老七年癸亥夏五月幸于芳野離宮時

笠朝臣金村作歌一首并短歌

タキノウヘノ ミフチノヤマニ ミツエサシ(レ)(ン)ご ニオヒタルト(ガ松)

瀧上之御舟乃山爾水枝指四時爾生有刀我

ノキノ イヤツギツギニ ヨロツヨニ カクシモ(シルシ)エレラミン(サン)ミ ヨシノ

乃樹能彌繼嗣爾萬代如是二知三三芳野

ノ アキツノミヤハ カミカラカ タフトカルラム(名)クニカラカ ミヽホシレカラ(從)

之蜻蛉乃宮者神柄香貴將有國柄鹿見欲將

ヤマニカハヨ サヤケクキヨミ(クキヨク)カミヨリ(イサキヨク)ユサタメケラシモ

有山川乎清清(イサキヨク)諾之神代從定家良思母

(三山モサヤニサヤケシトヨミ文ニハ此下脱句ヲ「ミヤトノ神代ヨリ人離宮ラ始メケル」ケン時ヨサス未考)

反歌二首 官 冲元

毎年如是裳見牡鹿三吉野乃清河内之多藝
トレノハニ カク モ ミテ レガ ミ ヨ
ツ レラナミ

津白波
ヤマタカミ レラユフ バナニオチタ キ

山高三白木綿花落多藝追瀧之河内者雖見
アカヌ カ モ

不飽香聞

或本反歌曰

神柄加見欲賀藍三吉野乃瀧河内者雖見不
カミカラカ ミマホレカラム ミ ヨシノ タキツカ ウチハ ミレト ア

飽鴨
カヌカモ

三吉野之秋津乃川之萬世爾斷事無又還将
ミヨシノ アキツノカハノ ヨロツヨ ニ タユルコトナク マタカヘリミ

見
ハツ セ メノツクル ユフ バナミ ヨシノ タキノ

治瀬女造木綿花三吉野瀧乃水沫開來受屋
リラモチ

車持朝臣千年作歌一首并短歌
トシ

味凍綾丹乏敷鳴神乃音耳聞師三芳野之眞
オトノミキ レミ ヨレノ

木積乃兒等與天雲乃通遠目師山乎
キツミノ コラト アマクモノ カヨフ トホメシ ヤマヲ

高三雖見不飽神河乃絶事無萬世爾
タカミ ミレド アカヌ カミカハノ タユルコトナク ヨロツヨ ニ

又還将見三芳野之秋津乃川
マタカヘリミム ミヨシノ アキツノカハ

反歌一首

去者川津鳴奈辨詳紐不解客爾之有者吾耳
サレバ カハツ ナキ ナ ベ ヒモ トカス タビ ニシアレバ ワレノミ

為而清川原乎見良久之情蒙
オミテ キヨキカハラヲ ミラク ノ コヽロ

千年續日本紀云
天平寶字元年
從五位上車持
朝臣益

白波ヲフミマ
ガヘテ作

鳴神 神ニモテナス神 イカツチヲモツヨリ順延ト云

奈辨 古今集ノ後ノ哥ニモアリカマトヲ心トヨコヌ
師云ハ鳴ナベトヲ心

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

瀧上乃三船之山者雖畏思忘時毛日毛無

或本反歌曰

千鳥鳴三吉野川之音成止時梨二所思公

西刺日不並二吾戀吉野之河乃霧丹立作

右年月不審但以歌類載於此次焉或本云

養老七年五月幸于芳野離宮之時作

神龜元年甲子冬十月五日幸于紀伊國時山部宿禰赤人作歌一首并短歌

安見知之和期大王之常宮等仕奉流左日鹿

野由背上爾所見奥島清波瀲爾風吹者白浪

左和伎潮干者玉藻苅管神代從然曾尊吉玉

反歌

奥島荒磯之玉藻潮干滿伊隱去者所念武香

聞

若浦爾塩滿来者滷乎無美葦邊乎指天多頭

タキノウヘノ　ミフネノヤマハ　カレコケレトオモヒワスルヽトキモ　ヒモナシ

瀧上乃三舩之山者雖畏思忘時毛日毛無

或本反歌曰

チトリナクミヨシノガハノ　オトサヤケクモヘムトキナレニ　オモホユルキミ

千鳥鳴三吉野川之音成止時梨二所思公（古宇妻）

アタ子サスヒノモヘナクニ　ワカヒルヨシノ　カハノキリニ　タチツヽ

茜刺日不差二吾戀吉野之河乃霧丹立作（古卿ノ悪シク思フ歟）

右年月不審但以歌類載於此次焉或本云

養老七年五月幸于芳野離宮之時作

神龜元年甲子冬十月五日幸于紀伊國時山部宿禰赤人作歌一首并短歌

ヤスミシヽワガ　オホキミノ　トコミヤト　ツカヘマツレル　サ紀ノ　カ

安見知之和期大王之常宮等仕奉流左日鹿

ノユ從リ　カヒニ　ユルオキツシマヤキヨキナギサニ　シラナミノ

野由背上爾所見奥島清波瀲爾風吹者白浪

サワギ　ミムロヒニハ　タヅモ　鶴ノ　カリツヽカミヨ　ヨリシカゾ　タフトキタヽ

左和伎潮干者玉藻苅管神代從然曾尊吉玉

ツ　シマヤ

津島夜麻

三代實錄第四十六、元慶五年十月廿二日丁酉、紀伊國正六位上玉出嶋神授從五位下、

ウツホ物語吹上ノ巻

反歌

オキツシマ　ヤマモ　シホミチヌ

奥島荒磯之玉藻潮干滿伊（發語）　カクレユカハ　オモホヘムカ

隱去者所念武香

聞

ワカノウラニ　シホミチクレハ　カタヲ　ナミ　アシヘヲサシテ　タツ

若浦爾塩滿来者潟乎無美葦邊乎指天多頭

波ト云ル訛不可取

鶴鳴哀

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

鳴渡（ナキワタル）

右年月不記但傍（倩）從（ニ）駕玉津島（ニ）也因今檢注（ヲ）

行幸年月（ヲ）以載之焉

神龜（紀不載）二年乙丑夏五月幸（ニ）于芳野離宮（ニ）時笠朝

臣金村作歌一首（并）短歌

アレヒキノ　ミヤマモ（ナツニ）　キヨキ（ヲ）　ミレハ（カミツベニハ）　チドリシバナキ（シ）

御山（三ヤマトヨリ吉野ニ至ル間ノ山ヲ云フ）當集ニ野ヲ云御野トヨメリ　斤山トヲ云ニ載ル同（奥野）

淨（キヨキ）乎見者上邊者千鳥數鳴（シ）　下邊者河津都麻

ヨフモ、レ　キ　ノ　オホミヤビトモ　ヨチコチニ（カヨヒ）　ツヽ（ミ）

喚百磯城乃大宮人毛越乞爾（ヲチニ）　思自仁（シニ）思有者

（ヨクヽ従駕ノ宮人ヽ）

芳野河之（カハノセノ）　河瀨乃（ヨシノ、カハノ）

吐嗟（アヤ）　日本紀又ヤアトモヨメリ　奚語辭又嗟嘆ノ辭尺ニ引リ

（助）

毎見文（ニ）　舟之（モ）　玉藻絶事無萬代爾如是霜願（モカナト）　跡

（カモ）　推古紀ノ下ニ出ス

（アキメ文ニ）

天地之神乎曾禱恐有等毛

反歌二首

萬代見友（ヨロツヨニミルトモアカメヤ）　將飽（タラジ）　三吉野乃多藝都河内之大

宮所（ミヤドコロ）

人皆乃（ヒトミナノ）　壽毛吾母（ワレモ）　三吉野乃（ミヨシノヽ）　多吉能（タキノ）　床磐乃常

有沼鴨（ナラヌカモ）　（ミヨシヌヨモトロキアリ今モオシマル心）

山部宿禰赤人作歌二首（并）短歌

（津ニイトヨキ有実ニーナヘハトキノ多キ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

鳴渡（ナキワタル）

右年月不記但傳從駕玉津島也因今檢注

行幸年月以載之焉

神龜二年乙丑夏五月幸于芳野離宮時笠朝臣金村作歌一首并短歌（紀不載）

足引之御山毛清落多藝都芳野河之河瀬乃

淨乎見者上邊者千鳥數鳴下邊者河津都麻

喚百磯城乃大宮人毛越乞爾思自仁思有者

天地之神乎曾禱恐有等毛

反歌二首

萬代見友將飽八三吉野乃多藝都河内之大

宮所

人皆乃壽毛吾母三吉野乃多吉能床磐乃常

有沼鴨

山部宿禰赤人作歌二首并短歌

ヤスミシ ワガオホキミノ タカシラス ヨシノヽミヤハ 宮殿ヲホメ(ホメナカリツクシ)
八隅知之和期大王乃高知為芳野離宮者立名
ツクアヲガキゴモリカハ ナミノ トキヽ チゾ
付水 哭耳泣 黒ナク花ミ忘テオク 梅笠巻 寫ヲカアトヲ殺ミテ 関係紀 弘字ヲヨトヨムヲ思フニヲルハ鬱ル意
山ノ松ニフキヲヽ指ウツロヒヌル色 遠里 ヲホノ
アラシ炭ノケブリヲヨルトヽ云類 サカリニヽリツクヲ云詞ニヤ
内兒耳 ヲ者霧立渡其山之 ヒトハ ツヒニカヨハム
事無百石木能大宮人者常將通

反歌二首

ミヨシノノ キサヤマ キハノコスエニハ 多ク後ノ巨勢等尺ヒトリ
三吉野乃象山際乃木末爾波幾許毛散和口
トリノコヱカモ 「之セセ」 ヤマノハノマ
鳥之聲可聞

ヌハタマノヨノ フケユケバ 寿十 ヒサギ 楸
烏玉之夜乃深去者久木生留清河原爾知鳥
(コヌレ) 木ノウヘヽ又又コヌレ 又師云久ヽシヤ木尺キ立

シハナク
數鳴

四本 ヤス ミシヽワガ オホキミハ ミヨシノヽ
安見知之和期大王皮見芳野乃

アキツノヽヨノ
阿岐豆野ノ詞ニ
又セコハ責手ト云心ニ延喜式ナトハ狩子ト云
左衛門式

鮑津之小野笑野上 野ノ高キ処ヲ野上トヽ云 オミツヽモアハトリテ
チハ霞ム野ヲ野上ヨリ見ハ美濃ノ野上ヽヽトイヘリ

御山 深キ山ヲヽヤマト云ニハアラス 奥山トホメテ云詞ニ西宮云御ヽ
名進ニ保 御四海ト泊ノオホムトヽ云ヨリヽリオホムヲ中畧ノオホム
トヨメリオホシ上略ノムトハカリヨムヲ便音ニ協テヽニトハヨメリ
養老年中ニ国郡ノ名ヲヨキ文字ニテニ字ニカキリテウケヨト勅シヨリ
喜式ニモヨキ文字ニテ二字ニカキリテ名付ヨト云ルタトヘハ中ノ郡ヲ那珂
トヽ云ハ中ヽヲヽヲ那ト云文字ヲカルヽ 戈許後ニ巨、等
ニシノ田井

ソタテヽ ハルノヽ ヲ十三 射目ヌテ
野ノ高キ処ニヲブレ
ナドサニテヘシヲセ
ヲヨコ鹿カヨヒク
ルヲワヽワレヽ落
行ヲイサセナトスル
者ヲトヽスヘヲヨ
トヽヘ

曾立為春之茂野爾

(ノ、現在ノ此説可)

反歌一首

アレヒキノ ヤマニモ カリビトノ 狩河野
足引之山毛野毛御猟人得物矢手挟

(狩ニヨモノル矢也)

ルニ 有所見

タヽナハノ疊附ヽ
ホニモタヽナハル

新古冬ヽ赤人

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

八隅知之和期大王乃高知為芳野離宮者立名附青垣隠河次乃清河内曽春部者花咲乎遠里秋去者霧立渡其山之彌益々爾此河之絶事無百石木能大宮人者常将通

反歌二首

三吉野乃象山際乃木末爾波幾許毛散和口鳥之聲可聞

烏玉之夜乃深去者久木生留清河原爾知鳥數鳴

安見知之和期大王波見吉野乃芳野上者跡見居置而御山者射固立渡朝猟爾

笑野上者跡見居置而御山者射固立渡朝猟爾十六獲起之夕狩爾十里蹋立馬並而御猟曽立為春之茂野爾

反歌一首

足引之山毛野毛御猟人得物矢手挟散動而有所見

金村ノ高ハ夏五月ト云ヘリ後ノ歌人ノ高ハ春ノ心ヲ野ト山野ノ高ニハアラス

右不審先後但以使故載於此次

聖武紀神龜二年

冬十月幸于難波宮時笠朝臣金村作歌一首

并短歌

ツレナシ 無情ノ心ヲモノ心ヲ思ヒ知テフノカホハアルヲアゲフ 和名集攝津國東生郡味原（アヂフ）原ヲヨメルトス 註脈續日本紀ニ幾生野ト有延喜式ニ豊嶋（アヂフ）察味原牧日本紀略ニ神龜二年十月天皇ノ豊嶋ノ宮幸武庫ノ時ト有ヘシ 師説ニ味經ヲ阿賀ヘトヨムヘシト又ハ賀ハ嶼ノ字ノ誤ナルヘシ

而者禮毋爲有之間爾續麻成長柄之宮爾眞木柱太高敷而食國乎收賜者奥鳥味經乃原爾物部乃八十伴雄者廬爲而都成有旅者安

ツレモナキ 無情ノ心ヲモノ心ヲ思ヒ知テフノカホハアルヲアゲフ 和名集攝津國東生郡味原（アヂフ）原ヲヨメルトス 註脈續日本紀ニ幾生野ト有延喜式ニ豊嶋（アヂフ）察味原牧日本紀略ニ神龜二年十月天皇ノ豊嶋ノ宮幸武庫ノ時ト有ヘシ 師説ニ味經ヲ阿賀ヘトヨムヘシト又ハ賀ハ嶼ノ字ノ誤ナルヘシ

オキツ鳥 味ハオキニ云物ニヨセハ如此ツクオキハ海モ田モ池ニモ云ヘトモ今ハ海ノオキニ

礒野（アラキ） 日本紀私記

玉藻 笠金村（イサムウヂ）

反歌二首

（本ノ九ニ全數ノ哥アリ）

荒野等丹里者雖有大王之敷座時者京師跡

成宿（アニヨトメ）

海未通女棚無小舟掾出良之客乃屋取爾梶（今ノカヂ櫓）

音所聞

車持朝臣千年作歌一首 并短歌

千重浪（ナミ）縁（ヨリ）夕（ユフ）菜寸二百重波因邊津浪之益

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

右不審先後但以便故載於此次

冬十月幸于難波宮時笠朝臣金村作歌一首
聖武紀神龜二年

并短歌

忍照難波乃國者葦垣乃古郷跡人皆之念息
豐字二句オレニヘリヤナニハ　ウミヲナスガ　日本紀ニハ

而都禮母奈久有之間爾續麻成長柄之宮眞
無字記　アヒタニ　ハヘラフトタカシキテヲロスクニヲ

木柱太高敷而食國乎收賜者奥鳥味經乃原
長柄ノ宮ヲ御ウセアラセラレテ行幸ナド成ル

禮母都方
日本靈異記盤余淳名倉譯田宮食國二合久乎支

禮十方

爾物部乃八十伴雄者廬爲而都成有旅者安
イホリシテ　孝徳紀ニハ　アリ

反歌二首

荒野等丹里者雖有大王之敷座時者京師跡
ヤマトニ

成宿
アマヲトメ

海未通女棚無小舟搖出良之客乃屋取爾梶
タビノヤドリニカチ

音所聞
ヲトキコユ

車持朝臣千年作歌一首并短歌

千重浪縁夕菜寸二百重波因邊津浪之益
ホ　ナミヨセユフナキニイ　ナミノヘツ

鯨魚取濱邊乎清三打靡生玉藻爾朝名寸二
イサナドリハマヘヲキヨミウチナビキオフルタマモニアサナキニ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

敷布爾月二異二日雖見今耳二秋足目八
方四良名美乃五十開回有往吉能濱

反歌一首

白浪之千重來縁流住吉能岸乃黄土粉二寶
比天由香名

山部宿禰赤人作歌一首并短歌

天地之遠我如臨照難波乃宮
爾和期大王國所知良之御食都國日之御調
顯珠左盤爾潜出舩並而仕奉之貴見禮者
等淡路乃野嶋之海子乃海底奥津伊久利二
朝名寸二楫音所聞三食津國野嶋乃海子乃
舩二四有良信

反歌一首

神龜三年丙寅秋九月十五日幸於幡磨國印南野
時笠朝臣金村作歌一首并短歌

名寸隅乃舩瀬從所見淡路嶋松帆乃浦爾朝

名藝爾玉藻苅管暮菜寸二藻塩焼乍海未通
女有跡者雖聞見爾將去餘四能無者大夫之
情者梨荷手弱女乃念多和美手徘徊吾者衣
戀流舩梶雄名三

反歌二首

玉藻苅海未通女等見爾將去舩梶毛欲得浪
往回雖見将飽八。名寸隅乃舩瀬之濱爾四寸

流思良名美。

山部宿禰赤人作歌一首。并短歌

八隅知之吾大王乃神隨高所知流稻見野能
大海乃原笑荒妙藤井乃浦爾鮪釣等海人舩
散動塩焼等人曽左波爾有浦乎吉美宇倍毛
釣者爲濱乎吉羨諾毛塩焼蟻往来御覧母知
師清白濱

反歌三首

神中抄三藤江由緣アリ

還御アンエストルトキノ作ナルヘシ

オキツナミ　ナミシツケニ　イサリスト　フチヲル　ノ　ウラニ　フチゾ　トヨメ

奥浪邊波安美射去爲登藤江乃浦爾舩曾動流

（仙覺ヤマト云說文字ニアタリテハサルコト也安靜心ナリ）

イナノ（ナシ心ニカケリ）、アサヂ　オシナミサ　ヌルヨノケ　ナカクアレハ　イヘ（神中六帖子）シノブル

不欲見野乃淺茅押靡左宿夜之氣長在者家

アカレガタシホヒノ　ミチヲ　アスヨリハ　シタヘニエカン　シタタクシテケム　イヘ　ナカヅケ

明方潮干乃道乎從明日者下咲異六。家近附

（シタ心ニ通仙窟）

者

過辛荷（ニノ）島時山部宿禰赤人作歌一首并短歌

（播磨國風土記ニ韓荷ノ嶋ト韓人破舩所漂之物漂乾於此故曰韓荷ノ嶋ト今ニカラニトヨムカヨ）

（續後撰ニハヨロシカラス）

妹ヲ水ノ泡ニ見ナシ

紅ノウスモサクラトイヘカバサクラ成ヘシ

青山処尺又山ノ惣名トテ

盡　父テハテマテノテマノ文字

神木哥ニナト曰タニヤハラリヤトロナヤワカラフモノモヒヌヨリヤ古ナヤ

阿礼乎神之嶋乃

（阿礼ハ生ノ意ナリ）

イモカメシバミヅテシキタヘノ　ゾクラモ　マカス　カニハ（カベ）

味澤相妹目不數見而數細乃枕毛不卷櫻皮

アハヒヂノ　シマモ

（ワキヘトヨ）

纏作流舟二眞楫貫吾榜來者淡路乃野島毛

スキヌイナ　ヒツマ（カラニノ）シマノ

過伊奈義（ヲ）嬬辛荷乃島之島際從吾宅乎見者

アヒヤマノソノ（ヲカ）トモミエスシラクモモチヘニナリキヌ

青山乃曾許十方不見白雲毛千重爾成來沼

コギタム（廻）ウラノハテマテユキカクシマノサキ〳〵モオカス

許伎多武（廻）流浦乃盡徃隱島乃埼埼隅毛不置

（隈手ノ仲）

憶曾吾來客乃氣長彌

（頼忍ニ非ス只鶴ニテモアヌ身ナレハ家思ハルレ）

反歌三首　（木雅註曰鸛雀求鳥也）

タヅモカルカラニノシマニアサリスル　シヲ（ナシ）ニシモアレ（ナシ）

玉藻苅辛荷乃島爾嶋回爲流水鳥二四毛有

（ヲ九ナシ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

ヤ イヘオモハサラム　アラハヤノ心ニ此ヤト云モ頼ノ詞トテニラストノ分アリ三七ヤナオシマニハ頼ノオラハオラニヤ今ノウニシモアレヤハ此心

哉家不念有六

師云神名帳出雲国熊野神社若此処ヨリ出ル ヤマトヘ

真熊野之船

紀伊ノ熊野ニアル神代ノ事ニハ不見日本紀疏

神代巻下故以熊野諸縣船為名天載使者猶背胚

旧支本紀天鳥船神矣猶背胚俱使名也

日本紀疏曰熊野船名伊豫国風土記云■昔野間郡有一船名熊野後化為石蓋此類也諸矣言数多水手操舟也又仁徳時播ノ明石驛家有一井神樹生其上時人伐其樹造舟其迅如飛一楫去越七浪故曰速鳥此云天鳩舟乃速鳥之義也名天鳥船見下文

十一之世六云浦廻榜能野舟附 今案疑亡熊字列

火乎至下世九葉左六亦有直熊野船之同熊野浦舟

形異他処故得此名乎

倭邊上真熊野之船

歌

ムカフアハチノ ニ ヌ メノ ウラノ キキヘ

御食向淡路乃島二直向三犬女乃浦能奥部

ニハフカミ ル ツミ ウラワ ニハナノ ソシカリフカミ ルノミ ヘク

庭深海松採浦回庭名告藻苅深見流乃見巻

（下白紀ヲ・ホニ）

御膳ニカケテ如ク ニナカキサシムカフ心ニハイフクミテモヨミヌヘシ

延喜式宮内式ニ志ノ深海松カミル

右件歌者或書云

柿本朝臣人麻呂作歌一首并短

倭邊上真熊野之船

ツマタノホソエニウラ

細江爾浦

都多乃

ホシニシト ナノリソノ オカナシシミ

欲跡莫告藻之巳名惜三間使裳不遣而吾者

イカリトモナ ノヒロ

生友奈重二

（此二字二ヶ月ニ回シ四ノ義ニテイカヽ尺ナレトヨムヘシ）

反歌一首

スヽノ 浦ワヽ シオヤノキキスノ

為間乃海人之塩焼衣乃

キミシ ワスレテ オモハム

君乎忘而将念

ナヌエニワスレヌトカヽレ

右作歌年月未詳也但

聖武紀神龜ノ

四年丁卯

此正月廿六ハ従三位ノ上ノ次ニ有リ

春正月勅諸王諸臣子等散禁於授刀寮時

（獄令又僧尼令ニモ 今ノ近衛ノ事ニモ 天平廿四年勝宝八年ニモ出 歳日本紀慶雲四年ニ置授刀寮）

（御供ナルヘシ）

（貴ナル事ナレハ ツカヒモ ヤウテ ツレハ 妻モトヘ 又一云ハ次ノ間ニテ言ノ通ノ故間使トイヘリ）

（着ル事ナレハ ツク ナルヘシ）

（獄令又僧尼令ニモ 今ノ近衛ノ事ニモ 天平廿四年勝宝八年ニモ出 歳日本紀慶雲四年ニ置授刀寮）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

ヤ イヘ オモハサラム アラハヤノ心ニ吹ヤトムモ顧フ詞トテニラストノ分アリミセヤナオシマコレハ願フ
オフヤオフルハオフスオフシヤ 今ノウミシモアレヤハ此心

哉家不念有六 トモシカモヤマトヘ ノホル三 ノフ子
島隱吾搒來者乏毳倭邊上真熊野之船
カゼフケハ ナミカタ、ムト ツマノホソエニ ウラ
風吹者浪可將立跡伺候爾都多乃細江爾浦
カクレ井又 サフラセテ 凡ソウカガフ乃 訛称候風ノ日本紀ニサモラフトモ
隱往ヲ 居宅
過ニ敏馬ノ浦時山部宿禰赤人作歌一首 并 短
歌
ムカフアハチノミニ タヽムカフミヌメノウラノキキヘ
御食向淡路乃島二直向三犬女乃浦能奥部
ニハフカミルツミウラワニハナノリソシカリフカミルノミマク
庭深海松採浦回庭名告藻苅深見流乃見巻

ホシミト ナノリソノ オノカナシシミ
欲跡莫告藻之巳名惜三間使裳不遣而吾者
イカルトモナ ノヒロ 妻モトヘ 又一云四方ノ国ニテ言ノ通ス
生友奈重二 此二字二行分ニ四ノ数ニテイル尺ナレトヨムヘシ
反歌一首
スヽノ津ア ノシホヤノキギスノ
爲間乃海人之塩燒衣乃奈禮名者香一日母
キミシワスレテオモハムナヌエニワスレヒヌトニハ
君乎忘而將念ヘ ムヤ
右作歌年月未詳也但以類故載於此次ニ

聖武紀神龜 テイボウ
四年丁卯
此正月廿六日ハ従三位ノ次ニ合二階ス一下ル
春正月勅諸王諸臣子等散禁於授刀寮時
ニアヒキミタチマヘツキミタチヲ
獄令又僧尼令ニモ 今ノ近衛ノ事ヲ中衛ノ将トイヘリ
天平廿四年勝宝八年ニモ出 続日本紀慶雲四年ニ置二授刀寮一

御膳ニカヘ
ミケ
御膳ニカフ如ク
ニカヨキサシカフ
心ニハイワクニテモ
ヨミヌヘシ
延喜式宮内式ニ
志ノ深海松
カミル

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ヤイヘオモハサラム　アラハヤノ心ニ此ヤトヽ云モ頗ノ詞トテニラストノ分アリ三七ヤナオシマコヽハ願ノ心ニテ今ノウミモアレヽハ此心ニテハ此ノ心ニテハ此ノ心ニテハ此ノ

作歌一首并短歌

（春景色ヲ序ス）クズハフカスカ ノヤマハ（春ノ過行序）春来ニケリト今ハルサリユク（往）ヤマノヘ（仲）カスミ
真葛延春日之山者打靡春去往跡山上丹霞
タナビキタカマトニ ウクヒスナキス。モノ（従駕人ノ）ヤソトモノヲハ
田名引高圓爾鶯鳴沼物部乃八十友能壯者
ノリフガシモノナヲ（ヲ之世ハ）キツギテナキ助コニツギツ
折木四哭之来繼皆石此續常丹有脊者友名
（行ヲ里ヲ）ユカムニシサトヲ マチガテニ
目而遊物尾馬名目而往益里乎待難丹吾爲
ハルヲカナヤクモ アヤニ カレコクイハマクモ ユ、
春乎吠巻毛綾爾恐言巻毛湯湯敷有跡豫兼
（イムコトヲ）キフルスカノ子 トリテ
而知者千鳥鳴其佐保川丹石二生菅根取而
（中臣祓）スメロキ
之努布草解除而益乎往水丹潔而益乎天皇

（法度ヲ厳ニ守リ）

ハ三 コトカシコミモ、シキ ノ オホミヤヒトノ タマボコノ 三千二モ イニテ
之御命恐百礒城之大官人之玉桙之道毛不
（遊ビシ古反ヲイニ并ガルルニ改ム散禁ノ血割ニアタル）
出窓比日

反歌一首

ウメヤナギスクラ クヨレミサ ホノ ウチニ アソビシコトヲ
梅柳過良久惜佐保乃内爾遊事乎宮
（源氏蛍巻ニモミユ）
春日野而作打毬之樂其日忽天陰雨雷電
（日本紀）
此時宮中無侍従及侍衛勅行刑罰皆散
（侍官ヲ）
禁於授力寮而妄不得出道路于時悒憤即

（高円ハ笠山ノ内ト三ツアリ）
（石上 神功紀 オホ一オホ十萱ヲシテブトヌメリ）
（和名六十帙下疏鞘ト別也日本紀ニ全ク昂疏鞘也）
（オホ八ニ里モトベロニトヲニ全ク名ノ立麦ヲ庵モトいロニトモイヘリ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

作斯歌一作者未詳

五年戊辰

幸于難波宮作歌四首 和名集云廣瀬郡山寺姓氏録云摂津国皇別山守 時目録有之

大王之界賜跡山守居守云山爾不入者不止

見渡者近物可良石隠加我欲布珠乎不取不得

已

右笠朝臣金村之歌中出也或云車持朝臣千年作之也

千年作歌一首

朝波海邊爾安左里爲暮去者倭部越鴈四乞

母

右作歌之年不審也但以歌類便載此次

笠牡鹿之鳴奈流山乎越将去日谷八君當不相将有

右笠朝臣金村之歌中出也或云車持朝臣千年作之也

千年作歌一首

膳王歌一首

朝波海邊爾安左里爲暮去者倭部越鴈四乞

母

右作歌之年不審也但以歌類便載此次

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

サスタケノ大宮人
佐須陀奈能　都祢尓見由倍伎　伊麻能未能　阿礼也奈尓許曽

日本紀推古紀二妻徳太子薨ズルノ御哥ノ中ニ
佐須陀奈能　都祢尓見由倍伎　伊麻能未能　阿礼也奈尓許曽

此集ノ中ニサスタケノ大宮人ト云ヘルハ皆ナ此御哥ヲ
ソノ本ニ有ケレト此御哥ヲ
スムサホノヤマヲバ　オモフヤ
思邪是古郷ノ
行往ミクニノ
ビトヨメリ

我ノミメヤモ　コノ作者ノ一種別名トモ云メリ
コヤノミヤトヨメリ是ハ山ヤ宮ヲ
タヽ物ニスルイヒキヨヤトヨメリ後ニ
ハストサト云音通シテサスヤカテサ
トワケタル成ヘシ大ト生ト異ナレト和語通スレハ
ヤ　スミシ　シワカオホキミノ　三　ケクニハ　ヤマトモ　コヽモ

八隅知之吾大王乃御食國者日本毛此間毛
オナシトソ　オモフ

同登曽念

冬十一月太宰官人等奉拜香椎廟宮之時馬駐于香椎浦各述懐作歌

香椎廟宮史巻四百九十一別傳ヲ
国僧奄然ヲ其徒五六人浮海而至献銅器十餘事職員令ニ王年代紀巻一巻ノ
其年代紀所記云初壬号天御中主ノ尊次成務天皇
ノ仲哀天皇国人今為鎮国香椎大神
（神功皇后ヲイハヒ奉ルナルヘシ式外ニ
和名ニヨフヘカスヒトヨムヘシ）

帥大伴卿歌一首

イサヤコトモヲ　カヒノカタニシロタヘノソテサヘヌレテ

去來兒等香椎乃滷爾白妙之袖左倍所沾而

朝菜採手六

（アサナツミテム　海藻ナルヘシ）

大貳小野老朝臣歌一首

トキツカセフクヘクナリヌ　カヒガタニホヒノキハニタヽモカリテナ

時風應吹成奴香椎滷潮干汾爾玉藻苅而名

（ウラオチニ）

豊前守宇努首男人歌一首

（政事要略ニ号ヲ誤ル今ト違フ）

ユキカヘリツチニワカミノ（野ト本カニ）ヒトタアスヨリノチニハミムルヨシモナミ

往還常爾我見之香椎滷從明日後爾波見縁母奈思

仲哀紀神功皇后紀

姓氏録

新勅大納言藤原イサヤコラ

日本ハ和名此間ハ筑紫ニ筑紫ヲ遠ノ御門トヨメル心ト今ノ

時ツ風ハ俄ニ吹大風ナルヘシ

政事要略ニ二十三旧記云養老四年大隅日向両国隼人叛乱勅備前守宇努首男人為将軍祈八幡大神伐之多殺隼人大勝之於是為放生會報神恩

（天平十四年可考）

太宰少貳石川朝臣足人歌一首

刺竹之（サスタケノ）大宮人乃（オホミヤヒトノ）家跡住（イヘトスムサト）佐保能山乎（サホノヤマヲ）者（ハ）思（オモフヤ）毛君（モキミ）

（旅人ノ名卿ト）

帥大伴卿和歌一首

八隅知之（ヤスミシ）吾大王乃（ワカオホキミノ）御食國者（ミケクニハ）日本毛此間毛（ヤマトモココモ）

（九ヶ國ノ大名歌ニタヤスリツ役）

冬十一月太宰官人等奉拜香椎廟訖退歸之時馬駐于香椎浦各述懷作歌

（思邪足ノ宗行紀ミクニシノヒトヨメリ）

（神功皇后ヲイハヒ奉ルナルヘシ式外ニ和名ミヨフヘカスヒトヨムヘシ）

（仲哀紀神功皇后紀 姓氏録）

（日本ハ和名此間ハ筑紫ヘ筑紫ヲ遠ノ御門トヨメル心ト今ヒ）

（新勅大納言旅人イサヤコヲ）

（時ツ風ハ俄ニ吹大風ナルヘシ）

（政事要略ニ十三旧記云養老四年大隅日向両国隼人叛乱勅備前守宇努首男人為将軍祈八幡大神代之多殺隼人大勝之於是為放生會報神恩）

帥大伴卿歌一首

去來兒等香椎乃滷爾白妙之袖左倍所沾而（イサヤコトモラカタヘノカタニシロタヘノソテサヘヌレテ）

朝菜採手六（アサナツミテム）

（海藻ナルヘシ）

大貳小野老朝臣歌一首

時風應吹成奴香椎滷潮干汭爾玉藻苅而名（トキツカゼフクヘクナリヌカシヒガタニホヒノキハニタマモカリテナ）

（ニキツカゼ四十六同四十ヲ誤ヤ今ト遠ヲリ）

豐前守宇努首男人歌一首

往還常爾我見之香椎滷從明日後爾波見緑（ユキカヘリツネニワカミシカシヒノウラユアスヨリノチニハミムルヨシ）

（政事要略ニ号ヲ誤ヤ今ト遠ヲリ）

（阿野本ニ野ヲ予ト誤ヤ）

（ウラオ十三）

母奈思（モナシ）

帥大伴卿遥思芳野離宮作歌一首
ハヤヒトノ　世トノイハホモ　アユハシルヨシノ　タキニ　ナヲシカ
隼人乃湍門乃磐母　年魚走芳野之瀧爾尚不
ズケリ　サヾレトミヽヨ　吉野ハカシモ　天智紀ニ美曳之努能阿喩アユヨハ　エシノ　アユ
及家里

帥大伴卿宿次田温泉聞鶴宜作歌一首
筑前御笠郡　スキタ　ユノハラニ　ナクアシタヅハ　ワガゴトクイモニ　コフレヤ　トキワカズ　ナク
湯原爾鳴蘆多頭者　和名
（雲ニ大和ト載セタル能考（廿七王分ハ成ヘシ筑前国御笠郡次田
吾妹爾戀哉時不定鳴

天平二年庚午　散木集哀傷部ニ帥ノ妻ノ亡ヒシ年ノ冬ノ比ヨメルアムトハナケレ足ナトヲスヽキテヨメル
勅遣擢駿馬使大伴道足宿禰時歌一首
オクヤマノ　コケムシテカシコキモ　トヒタヽフヘシ　ナ
奥山之盤爾蘿生恐毛　問賜鴨念不堪國　三ノ日暇ノ心自
（満之心カアリ

右勅使大伴道足宿禰
（元明紀亜武紀
饗于帥家此日會集
ニハトヒツ
衆諸相誘驛使葛井連廣成言須作歌詞登
（元正紀本ハ白猪ト　ヲブサノ　ムラジ　（日本紀　カズ　ラスヘナ　（相応声
時廣成應聲即吟此歌一首
帥ノ妹ナル故逢見ニククヤシケレ成ヘシ
冬十一月大伴坂上郎女發帥家上道超筑
前國宗形部名兒山之時作歌一首
オホナムチスクナヒコナノ　カミコソハ　ナヅケソメケメ　ナヲノミヲ　（和名雅
大汝小彦名能神社者名著始鶏目名耳乎名
ゴヤマト　オヒテ　ワカコヒノ　チ　ヘノ　モナクサ　（和名ヒトヘ　（和名ヒトヘ　（和名ヒトヘ

同坂上郎女海路見濱具作歌一首

ワカセコニ　コフレハクルシイトマアラハ　ヒロヒテユカムコヒワスレガヒ

濱具トハテヲカテ忘貝トヨメルニ依ヨセテ名ヲ貝ノ上ニモ用ユ者捨而將去戀忘貝

イハヌカクノウウクシテ貝ヲモ忘貝トイフニ依テ一種トシルカ

ウヘワキラ忘ヒテナカム故ノ名成ヘシ和十九三六頁珠ノ文ノヤウニモ

三人王左日記ニハウスレ貝ニテヲヨニ合ク化高アリ師説

右日本国中日本紀ワカミヤト

（ウツセ貝ノ貝ヲ）

神ノルハシメシテ底心私云ヒフルノ類乎

二首

如字大伴ノ人ト云ヒオホトラハ云ヲ

凡有者左毛右毛將爲乎恐跡振痛袖乎忍而

アルカモ

有香聞

ヤマトノ日本ニ都ハ

倭道者雲隱有雖然余振袖乎無禮登母布奈

賢本自無假名而愚史試斬曰如此讀畢ヌ又男ヲ右大弁長忠ト本ニ

右太宰帥大伴卿兼任大納言向京上道此

（イツキノ上略）

（魚ガウヲ）

ナケレトモ

（思フナ）

ナメ

（忌ノ本）

（跡ニクルル）

（忌ノ仲）

（拾仲）

（カムコヒワスレガヒ）

（ヒロヒテユ）

（ヒロヒテ）

（ヒロヒテ）

（ヒロヒテ

同坂上郎女海路見濱具作歌一首

吾背子爾戀者苦暇有者捨而將去戀乏

冬十二月太宰帥大伴卿上京時娘子作歌二首

凡有者左毛右毛將爲乎恐跡振痛袖乎忍而有香聞

倭道者雲隱有雖然余振袖乎無禮登母布奈

右太宰帥大伴卿兼任大納言向京上道此

日馬駐水城頓望府家乎時送卿府乎之中

有遊行女婦其字曰兒島也於是娘子傷此別嘆彼難會拭涕自吟振袖之歌

大納言大伴卿和歌二首

日本道乃吉備乃兒島乎過而行者筑紫乃子島所念香裳

大夫跡念在吾哉水莖之水城之上爾泣將拭

三年辛未

大納言大伴卿在寧樂家思故郷歌二首

大納言大伴卿在寧樂家思故郷歌二首

須臾去而見牡鹿神名火乃淵者淺而瀬二香

須臾去而見牡鹿神名火乃淵者淺而瀬二香

指進之衆——刺過矛イガハ能刺透モノナレハ、進ハスヽメ也、退ハシリソク也、

指進之衆——刺過矛イガハ能刺透モノナレハ、進ハスヽメ也、退ハシリソク也、

茅花將落時爾之行而

茅花將落時爾之行而

藤原宇合卿遣西海道節度使之時高橋連蟲麿作歌一首并短歌

藤原宇合卿遣西海道節度使之時高橋連蟲麿作歌一首并短歌

（懐風藻ナトサミル二生辺役ニテ苦メル人ニ）

（懐風藻ナトサミル二生辺役ニテ苦メル人ニ）

白雲乃龍田山乃露霜爾色附時丹打超而客行公者五百隔山伊去割見賊守筑紫爾至山乃鹿伎野之衣寸見世常伴部乎班遣之山彦乃將應極谷潜乃狹渡極國方乎見之賜而冬木成春去行者飛鳥乃早御來龍田道之岳邊乃路爾丹管士乃將薫時能櫻花將開時爾山多頭能迎參出六公之來益者

白雲乃龍田山乃露霜爾色附時丹打超而客行公者五百隔山伊去割見賊守筑紫爾至山乃鹿伎野之衣寸見世常伴部乎班遣之山彦乃將應極谷潜乃狹渡極國方乎見之賜而冬木成春去行者飛鳥乃早御來龍田道之岳邊乃路爾丹管士乃將薫時能櫻花將開時爾山多頭能迎參出六公之來益者

反歌一首

反歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

大納言大伴卿在寧樂家思故郷歌二首

大納言大伴卿在寧樂家ニ思故郷ノ歌二首

須臾去而見牡鹿神名火乃淵者淺而瀬二香成良武

須臾去而見牡鹿神名火乃淵者淺而瀬二香成良武

（飛鳥川ノ変成ヘシ説ニヨセテ古里ノアレユク思ヒヤルベシ）

指進乃栗栖乃小野之茅花将落時爾之行而手向六

指進乃栗栖乃小野之茅花将落時爾之行而手向六

（宜ナルハイトマナレドナホ時ニ成トモ）

四年壬申

四年壬申

（懐風藻ナドヲミルニ一生辺役ニテ苦ムル人ノ蟲鳴作歌ナリ）

藤原宇合卿遣西海道節度使之時高橋連蟲麿作歌一首并短歌

藤原宇合卿遣西海道節度使之時高橋連蟲麿作歌一首并短歌

（重出ト松ノ事ヘ）

白雲乃龍田山乃露霜爾色附時丹打超而客行公者五百隔山伊去割見賊守筑紫爾至山乃曽伎野之衣寸見世常伴部乎班遣之山彦乃将應極谷潜乃狹渡極國方乎見之賜而冬ゝ木成春去行者飛鳥乃早御来龍田道之岳邊乃路爾丹管士乃将薫時能櫻花将開時爾山多頭能迎參出六公之来益者

白雲乃龍田山乃露霜爾色附時丹打超而客行公者五百隔山伊去割見賊守筑紫爾至山乃曽伎野之衣寸見世常伴部乎班遣之山彦乃将應極谷潜乃狹渡極國方乎見之賜而冬ゝ木成春去行者飛鳥乃早御来龍田道之岳邊乃路爾丹管士乃将薫時能櫻花将開時爾山多頭能迎參出六公之来益者

（功ヲ忘レテ云ハ萩日本紀三国ノ形木蒐ニ似タルヨリノ名ナリ　ソギハ逆ヨハテ退死放尼眉ノ事ニヤ）

反歌一首

反歌一首

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

ソコ(ヲ)ハクノ イクサヒト リトモコトアゲセズトリテ キヌヘキ(ヲ)ノ ヲ(モ)ヲチヨロツ 千萬乃軍奈利友言擧不爲取而可來男常曾
（與言 神代紀又高言 辰唇物ライワデ古又ヨコノナストゝ云心）
念 千万の軍（いくさ）なりとも言擧（ことあげ）せずとりて來（き）ぬべき男（を）ぞと思（も）ふ

（聖武天皇御製歟 或人云孝謙天皇御製 聖武紀 此等ノ字ミヨシ六房前縣守宇合等ナルヘシ）
天皇賜酒節度使卿等御歌一首并短歌
（日本後紀 タビラケリ）

右撿補任文八月十七日任東海道節度使
（海眠）

山陰西海

食國遠乃御朝庭爾波治奴（ヲ）ヌ（ヲ）ヌ（ヲ）ヌ

河内国ノ神社ノ名乎仲

超草香山時神社忌寸老麿作歌二首

ナニハガタ ミジカヨホヒノ ナガケレバ ミジカイヘナルイモカ ミケトハム

難波方潮干乃奈凝委曲見在家妹之待将問

タメ

多米

是モ所ノ名乎仲

タベゴエノ コノミチニシテ キシテルヤ ナエハノ ウミト ナヅタ

直超乃此徑爾師豆押照哉難波乃海跡名附

十二之世九十七之巻ノ七ノ丁ニモ

ケフ

一ハ仁徳紀ニ初テ三然ハ此哥ヨリハフルクヨメルコトナルニ心得カタレバカノフラ思ヒヤリテヨメル乎メヤナニハノトモニトモキオシテルヤトモ乎

士也毋空應有萬代爾語續可名者不立之而

マスラヤモ

和語ニテリトモニアリトモ云詞ニ

右一首山上憶良臣

オ

沉痾之時歌一首

続日本紀

ヤモハ

ムナシカルヘシヨロヅヨニ カタリツクベキ

山上臣憶良沈痾之時歌一首

十九ノ十四ハ

タノ

スベ

テ

良臣報語已畢有須拭涕悲嘆口吟此歌

ニ

ヲ

ニ

ヲ

大伴坂上郎女與姪家持從佐保還歸西宅

中

上

東使ノ河邊朝臣東人令問所疾之狀於是憶

ノ

ヲ

ニ

ヲ

ニ

ヲ

称徳紀

歌一首

コロモニハスレル類

飛鳥川泊瀬凡ノ類ニ

ワカセコカキタルキヌノヒモトケサケテ

吾背子我著衣薄佐保風者疾莫吹及家左右

カセハ イタクフキソ イヘニイタルマデ

宅

阿

歌一首

アラ コモリニ カサノヤマニヲ タカミ

雨隠三笠乃山乎高御香裳月乃不出来夜者

カクレツツ

西ノ八笠ノ下ニカクルハ物ニ隠コモリミカサトツヅク

カモ ツキノ イデコヌ ヨハ

更降管

クダチ

ケフ

大伴坂上郎女月歌三首

鶴高乃高圓山乎高彌鴨出來月乃遲將光

烏玉乃夜霧立而不清照有月夜乃見者悲沙

山葉左佐良榎壯子天原門度光見良久之好

藻

右一首歌或云月別名曰佐散良衣壯士也

緣此辭作此歌

豐前國娘子月歌一首 娘子字曰大宅姓氏未詳也

雲隱去方乎無跡吾戀月哉君之欲見為流

湯原王月歌二首

天爾座月讀壯子幣者將為今夜乃長者五百

夜繼許增

愛也思不遠里乃君來跡大能備爾鴨月之照

有

藤原八束朝臣月歌一首

待難爾余為月者妹之著三笠山爾隱而有來

市原王宴禱父安貴王歌一首
ハルクサハ ノチハ カレヤスレハホナストキハ 実ハトコイ ニ イマセカシコキウカキ ニ
春草者後波落易巖成常盤爾座貴吾君
(アヌレ之俗ニワテマクルナトニ師 磐 タヽヤカ)

湯原王打酒歌一首
(自云ヤキタチノカド ウチハナツニ スラヲイヤシ ケリ)
燒刀之加度打放大夫之禱豊御酒爾吾酔爾
(シキボシ常ニレキケルトニ云) (飲ミ借ル) (伊勢家集ヲケレ夜ノユキアヒノ霜ニヨテレカナヽト身ニサムクアタラサリケム) (禱 水ヲ本不用 ヲ以覚)
家里

紀朝臣鹿人見茂岡之松樹歌一首
(筆誤紀 シレケラカニ カニサ ビ タチテ サカエタルチ ヨ ニツノキノ トシノヲレ)
茂岡爾神佐備立而榮有千代松樹乃歳之不
(ラナク 紀伊國ニ八雲ニアリ不審) 知久

同鹿人至泊瀬河邊作歌一首
(才五 仮 ハシヒルタ キ チ ナカルル ハツせ カハタ ユルコトナクニタモ キテ ミ ム)
石走多藝千流留泊瀬河絶事無亦毛來而將見

大伴坂上郎女詠元興寺之里歌一首
(スル山崇峻紀ハヒメハ高市ノ郡ニ在テ法興寺ト云ヘ正紀ニナラヘラルヽ)
古郷之飛鳥者雖有青丹吉平城之明日香乎
(ニアルサトノアスカハアレド アヲニ ヨシ ナラノアスカヲ ニラクニ助ヨシモ 大和高市郡)
見樂思奴裳

同坂上郎女初月歌一首
(三日月ノ眉ニ似タルヨリ眉ニナテ眉ノカユリ ルヽ百テ思フ人ニアヘルカト)
月立而直三日月之眉根掻氣長戀之君爾相
(ツキタチテ タヾミカ ツキノ 十二ユ子 ニ廿ミ カキケ ナカコヒレ キミニ アヘ)

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

（ミヒテ）睹 仲哀紀

有鴨（ルカモ）

大伴宿禰家持初月歌一首

（フリサケテ）ミカヅキミレハ（ヒトメ）（ミ）シヒトノ（マヨヒキオモホユルカ）

振仰而若月見者一目見之人之眉引所念可（フリアフキテ）（モ）

閑

大伴坂上郎女宴親族歌一首

（エスルヤカウシ）（ニ）

（カク）レツヽアソヒノマトモ（クサキ）スラハルハモエツヽアキハチリユク

如是爲乍遊飲與草木尚春者生管秋者落去

（ノメコノ師）（才十二柳日生此上暑十九ヘル）（アヒテヘヾ）

六年甲戌

海犬養宿禰岡麿應詔歌一首

（アマノイヌカヒノ）（明字歟）

御民吾生（ミタミワレ）（キケル）（シルシアリアメツチノ）（サカユルトキニ）（アフラクオモヘハ）

有驗在天地之榮時爾相樂念者

春三月幸于難波宮（ニ）之時歌六首

（ミユキセ）（アケモ）

難波邊者（ミ）（ス）（シノヒテノミヤ）（家ノ妹ヲ）（コヒワタリ）

不見隱耳哉戀度（カクレテノミヤ）（水戸可用）

右一首作者未詳

（ミユゲトクモ井）（ニ）（ミユル）（アハノヤマ）（心ニ）（少ク自ニ）（カケテ）（コグフネトマリシラス）

如眉雲居爾所見阿波乃山懸而榜舟泊不知

（阿波ノクニニ三ル山ヲ云ベシ一処ノミヘカクス）

毛（モ）

右一首作者未詳

（聖武紀廢帝紀後二宝字八年二流サル）

船王作

日本紀云人民和名 此止久佐一云於保久加良

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用

有鴨（カモ）

大伴宿禰家持初月歌一首

振仰而若月見者一目見之人之眉引所念可（フリサケテ ミカヅキミレハ ヒトメミシ ヒトノマヨヒキオモホユルカ モ アリアフキテ六帖 眉ノコトシ才十四）
閨

大伴坂上郎女宴親族歌一首（エスルヤカウヂ）

如是爲乍遊飲與草木尚春者生管秋者落去（カクシツヽアソヒノミコトモクサキスラハルハモエツヽアキハチリユク 才十二柳目生此上畧ナルヘシ）

六年甲戌

海犬養宿禰岡麿應詔歌一首（アマノイヌカヒノ 脱字歟）

御民吾生有驗在天地之榮時爾相樂念者（ミタカラノワカイケルヒアリアメツチノサカユルトキニアフラクオモヘハ ミメワレ）

春三月幸于難波宮之時歌六首

住吉乃粉濱之四時美開藻不見隱耳哉戀度（スミノエノコバマノシヾミアケモミスカクレテノミヤ コヒワタリナム 住吉ノ内ノ処ノ名乎 蜆ヲ忌ノ字ヲヨメルカヒコソナケレ待人ニコソ依之花ニヤケトモ 家ノ妹ヲ 水戸可用）

右一首作者未詳

如眉雲居爾所見阿波乃山懸而榜舟泊不知（マユノゴトクモヰニミユルアハノヤマカケテコグフネトマリシラスモ 阿波ノクニニ九山ヲ云ベシ一処ヲ云ベカラス 心ニ 少ヲ自ニ）

毛

右一首船王作（亜卯紀廢帝紀後ニ宝字八年ニ流サル）

日本紀云人民和名比止久佐一云於保太加良

菅亭 元荼仁
血沼 古支紀

チヌワノメノ 菟原ノ処女ノ墓ヲ見ル歌

從千沼回雨曽零來四八津之泉郎網手綱乾
リヌルヲタ ヘムカモ (雄略紀ニ一磯歯津路ト四極山ニ非ス)

有沾將堪香聞 (卅六ヌレヲタヘサワカ方心)

右一首遊覧住吉濱還宮之時道上守部王

(或云千) 王應詔作歌

我妻ラガ アラバ フタリキカムヲ

兒等之有者二人將聞乎奥渚爾鴨成鶴乃暁
コヨ ノ

聲

右一首守部王作

ニスラヲハ ミカリニタヽシ

大夫者御猟爾立之未通女等者赤裳須素引
トメラハ アカモ スソビキ

(幸ヨキハヤヘビヲ 男女所ヲ得テアソブ底面白カラント思ヒヤル、体ノ)

清濱備乎

右一首山部宿禰赤人作

ウマノ アユミヲシテ キシノエノ ハーニヲニ ホヒテ

馬之歩押止駐余住吉之岸乃黄土爾保比而
スミノエノ スミヨシノ (下ノ句ハ上ノ十五葉車持千年カ哥ニ同シ又考一清江娘子カ哥ノ下句モ似タリ)
オサヘトヽメヨ

將去
ユカム

右一首安倍朝臣豊繼作 (聖武紀 己上六首)

筑後守外從五倍下葛井連大成遥見海人
位沖 ニ

釣船ヲ作歌一首

アマヲトメ タニモトムラシ オキツナミカレコキウニ フナデ (セルトゝヘケレトセリ古語ノ)
セリユ

海嬬嫋玉求良之奥浪恐海爾船出爲利所見
ミ

蒙求下孔廷宇徳璋カ一句引

日本後紀云一下ノ橘公ニサヘ死サヘノ哥ヲ左ニウツスヘシ

挽歌

桜作村主益人歌一首

不所念來座君乎佐保川乃河蝦不令聞還都
（オモヒヨラズキマセルキミヲサホガハノカハヅキカセデカヘシツ）

流香聞

右内匠寮大屬桜作村主益人聊設飲饌以
（タクミノツカサノオホヒサクワン）

饗長官佐爲王未及日斜王既還歸於時益
（ミアヘス）（サヰ）（ヲ）（ニ）（タケナヌ）（ル）

人怜惜不厭之歸仍作此歌
（アハレミ）（アカヌコトヲ）（ニ）（シ）

八年丙子

夏六月幸于芳野離宮之時山部宿禰赤人

應詔作歌一首并短歌
（ニ）（スミレ）（ワカオホキミノ）

八隅知之我大王之見給芳野宮者山高雲雫
（タナビクカハハヤミ）（セ）（ノ）（ミタマフヨシノノミヤハ）（ヤマタカミクモゾ）

輕引河速彌湍之聲鬱清寸神佐備而見者貴
（キヨキ）（カミサビテミレハ）（タフト）

八隅知之我大王之見給芳野宮者山高雲雫
（タナビクカハハヤミ）（セ）（ノ）（ミタマフヨシノノミヤハ）（ヤマタカミクモゾ）

輕引河速彌湍之聲鬱清寸神佐備而見者貴
（キヨキ）（カミサビテミレハ）（タフト）

又宜名倍見者清之此山乃盡者耳社此河乃
（ヨロシナベミレハサヤケシコノヤマノツキバノミコソコノカハノ）

絶者耳社百師紀能大宮所止時裳有目
（タエバノミコソモモシキノオホミヤトコロヤムトキモアラメ）

反歌一首

自神代芳野宮爾蟻通高所知者山河乎吉三
（カミヨヨリヨシノノミヤニアリガヨヒタカクシラスルハヤマカハヲヨミ）

市原王悲獨子歌一首
（五百井女王ノ御母贈一品能登内親王ニテ光仁天皇ノ皇女ニ妾ハ市原王ノ哥ノ所ニ注ス）

本曰姉妻能登内親王天平五年生然非五百井女王

伊勢物語ニトツ子ニサハ有ケハイトカナシウシタマニケリ

子孫繁昌ヲ祝ヒテ橘姓ヲモラ

ゴトトハヌキ スライモト 世 アヲトヲヨヲ

不言問木尚妹與兄有云乎直獨子爾有之苦
アリテフ

者
サ

忌部首黒麿恨友賜來歌一首
（孝謙紀・廢帝紀）トモノヲノ

ヤニノハ ニ イザヨフ ツキノ

山之葉爾不知世經月乃將出香常我待君之
（月代アリセヲ出ヤラヌシ）

ヨハ フケニ ツ

夜者更降管
クダチ上ノ廿七

冬十一月左大臣（目ニ先）辨
（天平元左大弁 同十五三左大臣）

橘城王等賜姓橘氏之時
（諱ヲ諸兄ト云ヒケト此集ニハタフトヒテ書ルヒシヌナシ）

御製歌一首

タチハナハ ミ サ ヘ ハナサ ヘ ソノハ

橘花者實左倍花左倍其葉左倍枝爾霜雖降
フレトモ

諸兄ノ勅撰ナスイカニテ天皇皇后ノ御製ヲ遺落セシヤ

マレトキハノキ

益常葉之樹
マスヰ

右冬十一月九日從三位葛城王從四位上
（葉ノ力ヘ又木ナレハ云ヒ常盤ヲトハカハレリ 又此集ニ常花モガ）

佐爲王等辭皇族之高名賜外家之橘姓已
サ ヰ ソウ ソク イフ （續日本紀卅十二）

訖於時大上天皇（元正天皇ヒ）皇后宮以爲
（天皇二字脱歟別ニ）（光明）

肆宴而即御製賀橘之歌并賜御酒宿禰等
アカリキヨシメス スル ミウタ

也或云此歌一首太上天皇御歌但天皇々
（ハ）

后御歌各有一首者其歌遺落未得探求爲
（テイハ） サラクソ アナクリコフ （爲ノアヤマリ）

今撿案内（ニ文ヒ俗ニ帳ト云類ヒ）八年十一月九日葛城王等願橘

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

宿禰之姓上表以（経三八十五日ニアタル）十七日
橘宿禰奈良麻呂（左大臣之男）（続日本紀卅三）召歌一首
（表史記三代世表索隠曰応劭云表録其支而不見之称也謂支微而不著須表明也故言表　文選序注向曰表者明也　キノ
於内表於外又書三十七表注善曰表者明也　ツチニ
標也如物之標表言標著事序使之明白以暁
主上得尽其忠曰表）
（聖武紀）冬十二月十二日歌儛所之諸王臣子等集
葛井連廣成家宴歌二首
比来古儛盛興古歳漸晩理宜共盡古情同
唱此歌故擬此趣奏古曲二節風流意氣

（一會ノ）之士儻有此集之中（キソフテ）（在ク）発念々和古體
我屋戸之梅咲有跡告遣者来云似有散去十
方吉
春去者乎呼理爾乎呼里鶯之鳴吾島曽不息
通爲
（宇豆保物語　梅花笠　如営　里ニサク花ニ宿ル鶯ハ春ノ
松ニヲルナリ）
九年丁丑
春正月橘小卿（佐為王ノ）并諸大夫等集彈正尹門部
王家宴歌二首

宿禰之姓上表以（經三八十五日ニアタル）十七日依表乞賜橘宿禰
橘宿禰奈良麿應詔歌一首（公之四十二　左大臣之男ニ續日本紀ニ見ユ）
オクヤマノ　マキノハ　シグレフル　ユキノ　シタヒモ　イマダ　ケナクニ　（下ニ忘ノ字アリ此ヨリ此ヨミハ橘ナルヘシ　新勅撰冬ノ部ニ此哥ヲ詞ヲカヘテ入リ）
奥山之　真木葉凌　零雪乃　消雖益　地爾落目八方
冬十二月十二日（聖武紀）歌儛所之諸王臣子等集
葛井連廣成家宴歌二首
ヒサカタノ　アメニモカヨフ　トコナツノ　ヒカリヲアヒテ　モミチセリトモ
比來古儛盛興古歳漸晩理宜共盡古情同
ヒサカタノ　アメニモカヨフ　トコナツノ　ヒカリヲアヒテ　モミチセリトモ
唱此歌故擬此趣轍獻古曲二節風流意氣（此時代ニモ又一アリ仲四ノ古ニ在云ヘリ）

（此小序ヌケテハ絆ノカタヘ古ノ字カヽルヘシ　ウアリ）
（續千春上ヨミ人不知）
我屋戸之梅咲有跡告遣者來云似有散去十方吉
ワカヤドノ　ウメサキタリト　ツゲヤラバ　イマキムカヘム　モヨシ　（古今集ニ月夜ヨシ夜ヨシトヨミ人ニ告ヤラハコヨヒニヤタリマタスレモアラスト云哥ト同意ナレトコヽニ古体ニテヨムヨシアレハ古今集ノ哥モアルキ哥ノ殘レルヲヒロヘルトソシルヘキ）
之士儻有此集之中（一會ノ）發念心々和古體
ハルサレハ　ヤトリニヲヽリ　ウクヒスノ　ナクワガヤトヲ　タヅネケムカモ　（宇豆保物語　梅花笠　迎賓　里ニヰク花ニ心ヲヤトシテ奥山ノ松ニヲヽルナウクヒスノコヘ）
春去者乎呼理爾乎呼里鴬之鳴吾島曽不息通爲
ハルサレハ　ヲヽリニヲヽリ　ウクヒスノ　カヨハセ（来ル心）　（ツクル池ノ嶋ナトニヤ名所ト云ヘルアラン）
九年丁丑
春正月橘少卿（佐爲王ノ）并諸大夫等集彈正尹門部
王家宴歌二首

カ子テヨリキミキマサム　ト　シラマ　セ　ハ　カト

豫公來座武跡知麻世婆門爾屋戸爾毛珠敷
（マツカムヒト）（十二オ十八オ十九ニモ是ニ似タル作アリ）
益乎

右一首主人門部王後賜姓大原
（アルシ）（オホハラノ）（キミノフモ）（ケフモ）（ミツレド）（真人）（氏也）

前日毛昨日毛今日毛雖見明日左倍見巻欲
（モ）（キノフモ）（キミカモ）

寸君香聞

タケノカニ
此間ノ哥林良材ニハソガヒトヽ云伺ノ中ニ載タマヽ管見抄ニハクレ竹ノスカヒ〳〵シクナリスカヒハスキ間夜ヽトヽ云ヘリ今案ニハスキアヒトヽ云ヲ
共伺又加ナトハツヽメテスカヒトヽ云ヘル此哥ハソカヒニテスカヒニモ叶ハスコレ取アヘスムゴニ入来心心カトニヤトニモ玉ニカマレラトハ部王ノヨメルニタヘテ玉ヒキテ君カマタレ時ニマヒリコヨリハフトヨリアヒテ宴スルヲタノシキ夜ニ思フトヨミ玉フヽタケノカ伺ニヨリ外ニイマタ見及ハス
師云タケハタケキヽソカハスカヽシ真スゲ（マヽ）ト思ヒ立テ求ルヽ

玉敷而待益欲利者多鶏鳴蘇香仁來有今夜四
（平勝宝三年正月賜二文成王一并南備真人姓一モシ此文成ニテ）（タヽニ改テ此姓ヲタメマヒケルニヤ）（即少卿之子也）（セウキヤウ）

首
（三之ケキニツカニ也）

樂所念

春二月諸大夫等集左少弁巨勢宿奈麻呂
（スクナ）（少ナ呂　聖武紀）

朝臣家宴歌一首
（ウナバラノ）（トホキリタリヲ）（ミムト）（ナヅサヒ）

海原之遠渡乎將見登莫津左比
（ソコヒ）（蓬莱ニヘ）（ホシタチナムツブ）

曽來之

右一首書白紙懸著屋壁也題云蓬莱仙嬢
（ツムヒト）（ニツケタリ）（ニカケツク）（メクトコヨ）（ヒメ）

所曩鴈爲風流秀才之士矣斯凡客不所望
（ソレカリ）（ニスル）（ニ）（ソレカクノ）（タヾヒト）

見哉
（凡流秀才ノ士ヲサス左註ニヨレハ仙女ヲ自ラ比ヘテ出セルニヤ）

推量ズルニ山澄ガ妻ノ阮籍ヲ慕ノ際ヨリモシヤウニアルニヤガタノ女房ナドノ物ノ際ヨリ酒宴ノ席ニテ人ヲカイマミテ舞ノ興ニ蓬莱仙嬢ナト書付テカケルニヤ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

豫公來座武跡知麻世婆門爾屋戸爾毛珠敷
益乎

右一首主人門部王後賜姓大原
真人氏也

前日毛昨日毛今日毛雖見明日左倍見卷欲
寸君香聞

右一首橘宿禰文成即少卿之子也

榎井王後追和歌一首

玉敷而待益欲利者多鷄鳴蘇香仁來有今夜四
樂所念

春二月諸大夫等集左少弁巨勢宿奈麻呂
朝臣家宴歌一首

海原之遠渡乎將見登莫津左比
所嚢蘤為風流秀才之士矣斯凡客不所望
見哉

右一首書白紙懸著屋壁也題云蓬萊仙嬪
魯來之

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

夏四月大伴坂上郎女奉拜賀茂神社之時
使超相坂山望見近江海而晩頭還来作歌
一首

木綿疊手向乃山乎今日越而何野邊廬将
爲子等

（従者ヘ）

十年戊寅

元興寺之僧自嘆歌一首

白珠者人爾不所知不知友縦雖不知吾之知

有者不知友任意

右一首或云元興寺之僧獨覺多智未有顯
聞衆諸押侮因此僧作此歌自嘆身才也

右一首或云元興寺之僧獨覺多智未有顯
聞衆諸押侮因此僧作此歌自嘆身才也

或云丹比國之時歌三首并短歌

衣又打山従還来奴香聞

反歌一首

王命恐見刺並之國爾出座耶吾背乃公矣

夏四月大伴坂上郎女奉拜賀茂神社之時
使超相坂山望見近江海而晩頭還來作歌
一首
木綿疊手向乃山乎今日越而何野邊爾廬将
爲子等
十年戊寅
元興寺之僧自嘆歌一首
白珠者人爾不所知不知友縱雖不知吾之知
有者不知友任意
右一首或云元興寺之僧獨覺多智未有顯
聞衆諸押侮因此僧作此歌自嘆身才也
石上乙麿卿配土佐國之時歌三首并短歌
石上振乃尊者弱女乃惑爾縁而馬自物繩取
附肉自物弓笑園而王命恐天離夷部爾退古
衣又打山從還来奴香聞
王命恐見刺並之國爾出座耶吾背乃公矣

荒人神
日本紀云現人神和名安良比止加美
神アラクヌアラミノアヒオヒヲオモヘハヒサシスミヨシノ松
後拾遺 同取要 八幡ヨロ奉レ哥 スヘラヒモアラ人カミモナコムマニノ鳴ケル杜ノホトトキスヤ
サ代集ノ内ニアラス神中抄 統同花集ミ北野ニヨヤ奉レ哥
オモヒイヤナヨ名立身ハヤリキトアラ人神ニアリし昔ノ

上六タチノ哥ナ
ヘシ
是ハ紀ノ國ノ哥ナレヘ土左ト云ハ誤ナルヘシ

風爾不令遇草莒見身疾不
クニベニアヘズ
國部爾
千ハヤニワレハ
延喜式鎮火祭討
ナゴソハヤト
父公爾吾者真名子叙妣刀自爾
ウヂビトノホルヤ 八十氏人ヲ ウヂビトノカリノホル タノ
參昇八十氏人乃手向爲等恐乃坂爾幣奉吾
ハソオヘルトホキトナサチヲ
者叙追遠杵玉左道矣
テ行心 ニノ名ヲ負セ
反歌一首

神代紀神功皇后紀
是モ好玉好夫ノ哥ニアラサキクイマシメテ
三ハ草居穴処魚差心乎
アラヒトカミノフナノヘニウレ
神船舳爾牛
カミ
吉乃荒人神船舳爾牛
キヨリタヽハヤ
依賜將礒乃埼前荒浪
モトノ
有意令廻賜根李
アラヒトカミノフナノヘニウレ
神船舳爾牛
カミ
吉乃荒人神船舳爾牛
キヨリタヽハヤ
依賜將礒乃埼前荒浪
モトノ
有意令廻賜根李

羽五女
去好来
ノ哥ニ

オホサキノカミノヲ ハヽハ 世ハケレトモヘフ
大埼乃神之小濵者雖
土左ナリトニ云説モ推量トミヘタリ
ナガトナルキキツ
長門有奥津借島奥眞經而
アカ モフ
母我毛
秋八月二十日宴右大臣橘家歌四首
オキニヘテワレヲ
奥眞經而吾乎念流吾背子者
コソヘノ
巨勢奴香聞
古事紀上ハナシ神武
右一首長門守巨曽倍對馬朝臣
チトセニアリ
千年五百歳有

是ハ紀ノ國ノ哥ナレヘ土左ト云ハ誤ナルヘシ

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

繁
現人神 アラヒトカミ 日本紀

カケマクモ ユユシ カシコシ
繁巻裳湯湯石恐石住吉乃荒人神舶舳爾牛
ハキタマヒツキタマハム シヽノ サキザキヨリタマヒ
吐賜付賜將礒島之埼前依賜將礒乃埼前荒浪
カセニ アハセズ クサヅ管 ミヤトアラ世
風爾不令遇草菅見身疾不有急令癒賜根本
クニベニ (アヘメズ)
國部爾
千ヽキヽニ ワレハ (延喜式鎮火祭詞)
父公爾吾者真名子叙妣刀自爾吾者愛兒叙
ヽタノホルヤ ソヂビトノ (タノシ) ムケスト カシコノ
參昇八十氏人乃手向爲等恐乃坂爾幣奉吾
ハゾ オヘルトホキ トサチヲ
者叙追遠杵土左道矣 (ヽテ行心)
反歌一首

是ハ紀ノ國ノ哥ナルヘシ土左トハ誤ナルヘシ

上六タテノ哥ナリ

是ハ七百ノ哥也

オホサキノ カミノヲ ハヽ 世ハケトモヽフ
大埼乃神之小濵者雖小百船純毛過迹云莫
(オヽニモアリ) (土左ナリトニ云説モ推量トミヘタリ) (ハヽ母ハヽ尼ヨム云ヘリ)
國 (三ハヽ母ハヽ尼ヨム云ヘリ 七ニ神前紀伊国ノ名所ヽモヽニ是ニヤ)

秋八月二十日宴右大臣橘家歌四首

ナガトナルキツ カリビト オキニ
長門有奥津借島奥眞經而吾念君者千歳爾
モカモ
毋我毛

右一首長門守巨曽倍對馬朝臣

オキニ (我命ヲオクマヘテ長トイハスヘシ) テワレヲ オモヘル ワガセコ
奥眞經而吾乎念流吾背子者千年五百歳有
カモ ヌカモ
巨勢奴香聞

(古事紀上ハナシ神代)

モヒトヨミアルヲモヤウノ心ニテモ可有歟

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

右一首右大臣和歌（丸）
モ（レ）キ　オホ（ン）ミヤビト（ハ）ケフモ（カ）モ（イト）ニナケレト　サト（ニ）ユカ
百磯城乃大宮人者今日毛鴨暇無跡里爾不
（イト）マラナミト　（親ノ家ヲ云ヘル）
去（サラ）将（ム）有

右一首大臣傳云故豐島采女歌
（モト）ノテ　（レ）マノ　（ヒ）カ　（ヘ）カ
タチハナノモトニ　三千ワサヤ　チタヒ　モノヲ（ノ）　オモフヒト（ニ）　（レ）ラレ（ス）ズ
橘本爾道復八衢爾物乎曽念人爾不所知
（才ニ此哥アリ初ラ橘ノカケアムミチノトイヒ結句ヲイモニアハズテトイヘリ）

右一首右大弁高橋安麿卿語云故豐島采
（モト）ノテ　（レ）マノ
女之作也但或本云三方沙彌戀妻苑臣作
（テツマ）　（ソノ）　（イラム）ラ　生羽女ノ二字ヲ落セルカ上二巻
歌也然則豐島采女當時當所口吟此歌歟

六帖ニタチハナノ題ニ高橋ノヤス丸誤也

芹二云三方沙彌園臣生羽之妻ト云ヘリ經歟時ノ異伝作ラ二首ニ分ケタルカ左ニ

十一年己卯夏

天皇遊猟（紙中ニ一ノ字ヲ入ル）高圓野之時小獣泄走（ル）堵（サト）里（ノ）
（カリ）　（ミコ）　（ク）　（ハケ）
於是適値勇士生而見獲即以此獣獻上御
（ニ）　（ヤ）（ケ）カ　（イサミ）　（ヲ）（ノコ）（シ）テ　（エタリトテ）　（ヲ）（ヘ）　（ニ）　（メ）（ニ）
在所副歌一首　獣名俗曰牟射佐姚
（マシ）　（ニ）　（ヒニ）　（ビト）（ニ）
大夫之高圓山爾下來流牟射佐姚
（ミスラヲノ）　（タカマトヤマニ）　（オリクル）（ム）　（サヽ）（ビ）（ソコレ）
姚曽此
（ノユアヘ）

右一首大伴坂上郎女作之也但未逕奏而
（テ）　（ニ）　（イヌ）　（モ）　（スメ）（レ）　（ヲ）　（逕）
小獣死斃因此獻歌停之
（シヽケイス）　（ヘ）　（ヨリ）（テ）　（ニ）　（ヲ）（ル）　（モ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

十二年庚辰

冬十月依太宰少貳藤原朝臣廣嗣謀反發
（聖武紀 十二年十月）
軍幸于伊勢國之時河口行宮内舍人大伴
（勢ノ下ニ意カ脱カ 那カ ミヤノウチヨリ）
宿禰家持作歌一首

カハグチノ ノベニイホリテ ヨノフレバ イモカタモトシ キモヒタシモ
河口之野邊爾廬而夜乃歴者妹之手本師所
（ホユルカモ 庵ヲ）
念鴨

天皇御製歌一首
（聖武天王 名処ニアラズ才一伊勢國阿期ノ行宮トアリ ヒカベアガノ行宮トヨムヘキカ）

ツマヂロニ アガノベミレバ イモカタモトシ キモヒタシモ
妹爾戀吾乃松原見渡者潮干乃潟爾多頭鳴
（此時分家持妻ナレ妾ナヘシ）

渡

右一首今案吾松原在弖重郡相去河口行
（古事紀ニ ヘノ ニ無カ）
宮遠矣若疑御在朝明行宮之時所製御歌
（聖武紀）

傳者誤之歟

丹比屋主真人歌一首
（續日本紀家主ト云ヒ元正紀 聖武紀）

ヒトヤヌシ オモハクノ ヨノツネナラバ ヤマカハヲ ヘダテテアレド ユキテミテマシ
丹比屋主真人
（ノ 無カ）

泥能塘
（神名帳ニ 八ツ 泥能塘ヲ禁忌トシ玉ヘリ 泥能塘ヲ伊勢國ト云説ハ此アユノ山イホヘカクセルサヘ日本紀ニ鎮ノ字モコハ住ノ字モ ヨミテ住ノ字ニテハ待ノ字ニテハヤ）

住跡其念

右案此歌者不有此行宮之作乎所以然言

十二年庚辰

冬十月依太宰少貳藤原朝臣廣嗣謀反發
軍幸于伊勢國之時河口行宮内舍人大伴
宿禰家持作歌一首

カハグチノ　ヘニ　イホリテヨ　ノスアルラバ　イモカタモトヲ　キモ
河口之野邊廬而夜乃歴者妹之手本師所
ホユルカモ　（庵入）
念鴨

（聖武天王）　（名処ニアラズ才一伊勢國阿期ノ行宮トアリ）　（此時分家持妻ナシ妻ナヘシ）
天皇御製歌一首

（后）イモニ　コロワガノ　ニツハラノミ　ワタセバ　（我如ク）
妹爾戀吾乃松原見渡者潮干乃潟爾多頭鳴

ワタル
渡

右一首今案吾松原在二重郡一相二去河口一行
宮遠矣若疑（カコクオイマス）御在朝明行宮之時所レ製御歌（ナリ）
傳者誤之歟

（続日本紀家主ト云元正紀聖武紀）　（古事記ヘノ二書ニ出ル）
丹比屋主真人歌一首

（ヤヌシ）　ヒトヲ　オモハク。　（サキユ）　フトリテ、スニ
後爾之人乎思久四泥能墻木綿取之泥而將
（ナラノ京ニアル妻ヲサス）　キモノ　（待チ）　（マヌ）
住跡其念

（待チ）
右案此歌者不レ在二此行宮之作一乎所以然言

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

諸大夫ヲサスカ屋主一人ヲサスカ

之助大夫（スケオホ）從河口（カハグチノ）行宮（カリミヤ）還（テ）京（レト）勿（ナ）令（シメソ）從駕（ミユキニ）焉（ソ）何（ノ）

不審ナキニアラス一聖武紀ヲ考フルニ十一月二日ニ河口ノ頓宮ニ着セシニ十二日ニ未ダ河口ヨリ立テ壹志郡ニ至ラヤト云ヒ十四日ニ又伊賀ノ名張郡赤坂ノ頓宮ニ入玉ヒ廿日甲辰ニ再ビ眞人屋主ホカ從五位以上ヲ授玉ヒ廿三日丙午赤坂ヲタチ玉ヒテ朝明郡ニ出玉ヒ廿五日戊申一乗名郡石占ノ頓宮ニ着セ玉ヒ廿六日己酉美濃國當伎郡ニ至リ玉ヘリ然ラハ赤坂ノ頓宮ヨリ此ニ供ニテ廿一日ニ從五位上ヲ授玉ヘハ是ノサキ伊勢ノ國ニテイマタハレヲモ授ケ其間ニ在ベシ

狹殘行宮（サノカリミヤ）

此行宮聖武紀ニ不載紀ニ云テ未後河口ヨリ發至ニ壹志郡ニ宿ニ河口ノ行宮ヒ壹志郡ナルニソコノ立玉ヒテ壹志郡ニ至テ宿レ玉フトイヘハ紀ノ文誤レル案スルニ至ニ壹志郡狹殘行宮一宿ニテ有ケン今印本ノ續日本紀ヌケテ誤脫ノ処多ケレハ狹殘ノ行宮ノ名ヲ脫セルナルヘシ壹志郡ナラン思フ故ハ此集ホニ卷三ニ志貴皇子ノアマラレニクマノヘヲフナニノリテオキツクニストヨメリ後成ヒ今日トヤイフナルムイヤ為ヤイナレ浦ノアマホトメユトヨミ玉ヘリ志テ國ハ伊勢ヨリ西南ニモヤ侍ラム彼國ノ系内ニシテソコノ立玉ヒテ壹志郡ニ至テ宿レ玉フトコノ哥ヨメルヤウニ壹志郡ハ伊勢ノ國ノ方ニ近キ浦ナレハ十二日ニソコヲ御覽ノ十四日ニ鈴鹿ノ赤坂ノ頓宮ニイタラセ玉ヒテ志テ國ニソムキテ速ケレハ其後イヨイヨ此哥自ヘカラス此理ヲ以推スルニ十二日ニ至テ名玉フ行宮トシラレタリ

美濃國（ミノノクニ）多藝（タギノ）行宮（カリミヤテ）大伴宿禰東人（オホトモノスクネアツマヒト）作歌一首

（聖武紀當伎郡）

（養帝紀老仁紀）

從古人之言來流（イヒケルオヒヒトノワカユテフミツヅナニオス）老人之變若（ヘカレヨリニヤヅカヘケム）云水曾（ミソ）名爾負（ナニオフ）

（俗ニ云ワカヤグ〻ノ事四ノ三十九此下四十二ノ末ニ）

瀧之瀬（タキノセ）

（上ニ引ル古文紀當藝野上ニ云ル処ナルヘシ）

大伴宿禰家持作歌一首

（養老紀ニ多度山ノ下ニ出ル醴泉ノ事ヲ載テ云ヘリ紀ニ多度山ト云ヘルヨリ流出ル山川ノ上ニ醴泉ハワケル成ヘシ今モ養老ノ滝トキコユ）

大伴宿禰家持作歌二首

不破行宮（フハノカリミヤニ）大伴宿禰家持作歌一首

（兼輔集云タカヘ所ニ花ヲ出シヌリケルヲ返ス〻ニ書ツケテ送キ妙ノ枕ニヤリノ井ヒカハ立返リミン人ノトハマシヲ）

不破（フハノ）行宮（カリミヤ）大伴宿禰家持作歌一首

關無者（セキナクハ）還（カヘリニ）爾（ダニモ）打（ウチ）行而（ユキテ）妹之手枕（イモカタマクラ）卷手宿（マキテネ）益乎（マシヲ）

（俗ニ立ガヘリニ往テトヨ云頼シ末十七ノ長哥ニモ）

田跡河之瀧乎（タドカハノタキヲ）清美（キヨミ）香從古宮仕兼（カユフルミヤツカヘケム）多藝乃野（タギノ）之上爾（ウヘニ）

（景行紀ノ當藝斯祇トナルトヨ云ルハミノ之日タカノ末ニ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

之勅大夫（諸大夫ニサムラヒ屋ニ入ラカタメ）從河口（ニ泥）行宮還京勿（テ）令（レ）從駕焉何（ソ）

有詠思沼埼作歌（ノレ）（下）一首

狹残行宮（サヽムノヘノ）大伴宿禰家持作歌二首

（必伊勢ニアルヘシ係姫世紀上）

スメロキノ（ニ）ミユキモ（コ）カ（タ）天皇之行幸之隨吾妹子之手枕不（ニハヤクケヌ旅ルニイモカ手枕モマカヌト）巻月曽歴（カスツキゾヘ）去家留

御食國志麻（ケツクニニ）ノ（マヽ）海部（ア）有之（ナラレ）（テ）真熊野（キキベ）之小舩（クマノヽヲフネ）ノリ而奥部榜所見（コグニユ）

美濃國多藝（聖武紀當役郡タギ）行宮大伴宿禰東人作歌一首

（養帝紀老仁紀）

從古人之言來流老人之變（俗ニ云ワヤグ〻ヽ）若云水曽（ミヅカヘケム）名爾負（タ）瀧（タキノ）之瀬（セ）

（上ニ引ル古支紀當藝野上トニル処ナシ）

大伴宿禰家持作歌一首

（ムカシヨリヒトノ イヒクル オヒヒトノ ワカユ テフミツゾナニオフ）

田跡河（タドカハ）之瀧乎（ノ）清美香（キヨミカ）從古宮仕兼（ムカシヨリミヤヅカヘケム）多藝乃野（タギノ）之上爾（ウヘニ）

（景行紀ノ當藝斯祇トナルトニルハミノ日タテガヘノ木）

不破行宮（ニ）大伴宿禰家持作歌一首

關無者（セキナクハ）還爾（カヘリニ）（ダニモ）打行而（ウチユキテ）妹之手枕（イモカタ）巻手宿（ニクラン子）益乎（ヲ）

（俗ニ立ガヘリニ往テトモ云頼シ末十七ノ長哥ニモ）

兼輔集方々（タカ）ヘ所ニ枕ヲ出シタリケルヲ返ストテ書ツケシキ処ノ枕ニナリノ井ヲカハ立返リミン人ノトハマシ

元正紀ニ多ノ度山トニヘルヨリ流出ル山川ノ上ニ醴泉ハワケル成ヘシ今モ養老ノ滝トニヽ

美濃ノ醴泉ノ事ハ元正紀ニ委シ

十五年癸未

秋八月十六日内舎人大伴宿禰家持讃久邇京（一聖武紀）作歌一首

今造久邇乃王都者山河之清見者宇倍所知（御ノ字ノ心）良之（イニツクルクニノミヤコハヤマカハノキヨクミユレバウベシレラルラシ　ケニモ帝ノシロシメスラム）

高丘河内連歌二首（本姓ハ楽浪ノ元明紀聖武紀称徳紀）

故郷者遠毛不有一重山越我可良爾念曽吾世思（フルサトハトホクモアラズヒトヘヤマコユルガカラニオモヒゾワガセシ　古ノ妻ヲ思ヒテヨメルナルベシ）

吾背子與二人之居者山高里爾者月波不曜（ワカセコトフタリシヰレハヤマタカミサトニハツキハテラス）

十方余思（トモヨシ　是ハ十ラヘ帰リ来テヨメルニ）

安積親王宴左少辨藤原八束朝臣家之日（アサカノミコタムタノシクスルヒ　神護二年）

内舎人大伴宿禰家持作歌一首

久堅乃雨者零敷念子之屋戸爾今夜者明而將去（ヒサカタノアメハフリシクオモフコノヤドニコヨヒハアケテユカム　八束ヲス）

十六年甲申

春正月五日諸卿大夫集安倍蟲麻呂朝臣家（マチキミタチ　三位ヲ脱カ）

宴歌一首　作者不審

吾屋戸乃君松樹爾零雪乃行者不去待而将待

同月十一日登活道岡集一株松下飲歌二首

一松幾代可歴流吹風乃聲之清者年深香聞

一首市原王作

不知松之枝結情者長等曽念

右一首大伴宿禰家持作

傷惜寧樂京荒墟作歌三首　作者不審

紅爾深染西情可毛寧樂乃京師爾年之歴去

倍吉ヨノナカヨツネナキモノトイヒゾシルシ

世間乎常無物跡今曽知平城京師之移徙見

者

イハヅナノニタワカヘリアヲニヨシナラノミヤコヲ

石綱乃又變若反青丹吉奈良乃都乎又将見

鴨

宴歌一首 作者不審

ワカヤドノ キミニツノキ ニ フルユキノ
吾屋戸乃君松樹爾零雪乃
ユキニハ ユカジ ニチニレマタ
行者不去待而將
マツ
待

同月十一日登活道岡集一株松下飲歌二首

ヒトツニツイクヨ カ ヘヌル フクカセノ コヱノ スムルハ トレルカキカ モ
一松幾代可歷流吹風乃聲之清者年深香聞

右一首市原王作

タマキハルイノチハ レラヌ。ニツノガ エシスクヨロハ ナクト ゾオモフ
靈剋壽者不知。松之枝結情者長等曾念

右一首大伴宿禰家持作

傷惜寧樂京荒墟作歌三首 作者不審

イタミアタラシテ ヤ ノ アラトコロ 日本紀
クレナヰニ フカクソミニシ コノロカ モ ナラノミヤコ ニ トレノヘヌ
紅深染西情可毋。寧樂乃京師爾年之歷去

倍吉 ヌト心アリ
ヨノナカヲ ツネナキモノト イニソ シルナラノ ミヤコノ ウツロフミレ
世間乎常無物跡今曾知。平城京師之移徙見

者 ナトタト過ス萬ハルハテシナク様ニハ岩ナトニアトヒツクモノ
イハヅタノ ニタワカカヘリ アヲニ ヨシナラノ ミヤコヲ ミムカモ
石綱乃又變若反青丹吉奈良乃都乎又將見
鴨

右一首大伴宿禰家持作

茶仁都ニテヨメルト新都ハ漸ニ三年ヲヘマス、

玉雜二 ヨミ人不知

ツタ 絡名 本艸

玉雜二 市原王

続き雜下 中納言家持 マツガエヲ

悲寧樂故郷作歌一首并短歌

八隅知之吾大王乃高敷為日本國者皇祖乃
神之御代自敷座流國爾之有者阿禮將座御
子之嗣繼天下所知座跡八百萬千年矣兼而
定家牟平城京師者炎乃春爾之成者春日山
御笠之野邊爾櫻花木晩之時爾者於布流黄
葉乎挿頭而諸人之手折持而遊飲兒等爾者
後代乎不令見跡奈吹風爾移許之雪乃庭爾
落敷雖見不飽香聞不厭物故郷爾有者
乎石辛見散之狹男壯鹿者妻呼令動山見者

反歌二首

鶉鳴古郷成而故京之月夜清明見者悲毛

山裳見貌石里見者里裳住吉物負之八十伴
緒乃打經而思並敷者天地乃依會限萬世丹
榮將往迹思煎石大宮尚矣特有之名良乃京
矣新世乃事爾之有者皇之引乃眞爾真荷春
花乃遷日易村鳥乃且立往者剌竹之大宮人
爾異類香聞

反歌二首

悲寧樂故京郷作歌一首并短歌

八隅知之吾大王乃高敷為日本國者皇祖乃
神之御代自敷座流國爾之有者阿禮將座御
子之嗣繼天下所知座跡八百萬千年矣兼而
定家牟平城京師者炎乃春爾之成者春日山
御笠之野邊爾櫻花木晩窄貌鳥者間無數鳴
露霜乃秋去來者射鉤山飛火賀堤丗芽乃枝
乎石辛見散之狹男牡鹿者妻呼令動山見者

山裳見貌石里見者里裳住吉物負之八十伴
緒乃打經而思並敷者天地乃依會限萬世丗
榮將往迹思煎石大宮尚矣恃有之名良乃京
矣新世乃事爾之有者皇之引乃眞爾眞荷春
花乃遷日易村鳥乃旦立往者剌竹之大宮人
能踏平之通之道者馬裳不行人裳往莫者荒

反歌二首

爾異類香聞

タチカハリフルキミヤコト　ナリヌレハ　三千ノ　ヒト
立易古京跡成者道之志婆草長生爾異梨
名付西奈良乃京之荒行者出立毎爾嘆思益
讃久邇新京歌二首　并短歌
アキツ　カミワカスメロギノ　アメノシタヤ　シラ
明津神吾皇之天下八嶋之中爾國者霜多雖
トモサトハ　シラニアレドモヤマ並之宜國跡川次之立
有里者霜澤爾雖有山並之宜國跡都礼乃尓
シロノカセ　ヤマノカハ　ミヤハシラフト　シキタテ　タカシラス
代乃鹿脊山際爾宮柱太敷奉高知
スフ　タイノ　ミヤハ　カハチカミ　セノキワニ　トリガ
爲布當乃宮者河近見湍音叙清山近見鳥賀
子　フクムアキサレバ　ヤマモ　モミチノ　ニシキノ
鳴慟秋去者山裳動響爾左男鹿者妻呼令響

ハルサレハ　ヲカベモシロニ　イハツツジ
春去者岡邊裳繁爾巖者花開乎呼理痛怜
フタイノ　ハラニイヤタカキオホミヤトコロウツベシコソ
布當乃原甚貴大宮處諸巳曽吾大王者君之
隨所聞賜而刺竹乃大宮此跡定異等霜

此三字ヲ氏跡標刺　水戸ノ本

反歌二首

カノハラフ　タイノノ
三日原布當乃野邊清見
ヤマタカカク　ユミ
社太宮處定異等霜
ヤトヨ　タメシカミノ　サトヨ通ニ音ユカム　オホ
弓高來川乃湍清石百世左右神之味將往大

カミサビユカン心ヒトニ通ス

ワカキミノカミノ　タカシラス
吾皇神乃命乃高所知布當乃宮者百樹成山

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

タチカハリフルキミヤコト　ナリヌレハ　三千ノ　ヒト
立易古京跡成者道之志婆草長生爾異梨
ミ名ニ負ヘル　ヤ心ニシナ　ラノ　ミヤコノ　アレユケバ　イデタツゴトニ　ナゲキル　ニスモ
名付西奈良乃京之荒行者出立毎爾嘆思益
ヲ礼

讃久邇新京歌二首　并短歌

アキツ　カミワカスメロギノ　アメノシタヤ　シレニノ　ナカニ　クニハ　シレモ　オホクアレ
明津神吾皇之天下八嶋之中爾國者霜多雖
トモサトハ　シレドモヤ　アレドモヤ　ナミノ　ヨルシキクニト　カハナミノ　タチ
有里者霜澤爾雖有山並之宜國跡川次之立
アフサトト　ヤヘ　シロノ　カ　セ　ヤマノハ　ニ　ミヤハシラフト　シキタテ、タカシラス
合郷跡山代乃鹿脊山際爾宮柱太敷奉高知
スフ　タイノ　ミヤハ　カハチカミ　セノ　キトゾ　キヨキヤヘ　チカミ　トリガ
爲布當乃宮者河近見湍音叙清山近見鳥賀
子　ブスアキサレバ　ヤヘ　モ　ミヤト泉河ト呼　ニ　サヲ　シカハ　ツヽヨビトヨメ
鳴慟秋去者山裳動響爾左男鹿者妻呼令響

ハルサレハ　ヲカベ　モ　シビニ　イホニハナサキヲ　ヨリイトアハシ
春去者岡邊裳繁爾巖者花開乎呼理痛恠怜
フ　タイノ　ハラニイサヽカタカキオホミヤトコロウベシコソ　ワカオホキミハ　キミカ
布當乃原甚貴大宮處諾已曽吾大王者君之
ニセ　キカシ　タミヒテ　サスタテノ　キホミヤコ、ト　サダメケラシモ
隨所聞賜而刺竹乃大宮此跡定異等霜

反歌二首

三　カノハラフ　タイノノ　ヘヨキヨミ　コソオホミヤトコロサダメケラシモ
三日原布當乃野邊清見社太宮處定異等霜
ヤヽ　タカク　カハノ　セ　キヨシ　モ、ヨヽ　デカミノ　サト通音ニ　ユカム　オホ
弓高來川乃湍清石。百世左右神之味將往大
カミサビユカン心ヒトシト通ス
ヤヽ　タカク　ユミ　タカク　ヨト云ヒヤヽトユト通シヤハラト書ク又五ト音同シケレハ通スル手師説ヤマタカク人仙覚自賛ノ名ナリ
宮所　ユヘキトヨムヘシヒヤカニロヤフヲ云ホミニミホノウラニタメニミユ　左ヨメリ
ワカキミノカミノ　ミコトノ　タカシラス　フ　タイノ　ミヤハ　モ、キ　ナスヤヽ
吾皇神乃命乃高所知布當乃宮者百樹成山

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ハコ多シ　オチタキツセノ音モ清之鷺乃來鳴春
ヘハ　イハホニハ　ヤマシタヒカリニキナスハナサキヲヽリシカノ
部者巖者山下耀錦成花咲乎呼里左壯鹿乃
ツヘヨフアキハ　アヽキリヤウレグヒ
妻呼秋者天霧合之具禮乎疾狹丹頬歷黄葉
チリツヽヤチ　ト世ニ　アサ生四ノ十二　ツキシツヽ
散乍八千年爾安禮衝之乍天下所知食跡百
ヨニモ　カハルヘカラヌオホミヤトコロ　繼心
代爾毋不可易大宮處

反歌五首

イツミカハユク廿　ノミツノタエハコソ
泉川往瀬乃水之絶者許曾大宮地遷往目
フタイヤヽヤヽナミシハモヽヨニモ　カハルヘカラヌオホミヤトコロ
布當山山並見者百代爾毛不可易大宮處

ヲトメラガウミヲカクルカセノヤヽトキノユケレハミヤコ
嬬嫺等之續麻繫云鹿脊之山時之往者京師
ナリヌ　（續ノ字ナルヘケレト此集ニ凡後皆如此云）
跡成宿
カセノヤヽコダチヲシケミアササラズキナキヨミスウクヒスノ
鹿脊之山樹立矣繁三朝不去寸鳴響爲鷺之
コヱ　（朝ナクヽ）
音
コヽヤヽニナクホトヽヤスイツミカハワタリヲトホミコヽカヨハス
泉河渡乎遠見此間爾不通
（昔ハ橋ヲ不レ作渡リ乍レ催馬木歟象国史玉吟）
一云渡遠哉不通有武
ワタリトラミヤカヨハサルラム

春日悲傷三香原荒墟作歌一首并短歌

カノハラクニノミヤコハヤヽタカミカハノセキヨアリヨシレトヽ
三香原久邇乃京師者山高河之瀬清在吉迹

（玉吟　永隆　五月雨ハワタリヲ遠ミ泉川ヨヽ山ミヤヲ雲ワカクレル）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

人者雖云在吉跡吾者雖念故去之里爾四有
者國見跡人毛不通里見者家裳荒有波之異
耶如此在家留可三諸著鹿脊山際爾開花之
色目列數百鳥之音名束敷在杲石住吉里乃
荒樂苦惜哭

反歌三首

三香原久邇乃京者荒去家里大宮人乃遷去
禮者

咲花乃色者不易百石城乃大宮人叙立易去
流

難波宮作歌一首并短歌

安見知之吾大王乃在通名庭乃宮者不知魚
取海片就而玉拾濱邊乎近見朝羽振浪之聲
奈波之伎尓所聆暁之寐覺爾聞者海
鶴鳴動視人乃語丹爲者聞人之視巻欲爲御

ヒトハ イヘトモアリヨシト ワレハ オモヘトモ
人者雖云在吉跡吾者雖念故去之里爾四有
ハクニミレド ヒトモカヨハスサトニシレアレ
者國見跡人毛不通里見者家裳荒有波之異
ヤレカク アリケルカミモロツクカ
耶如此在家留可三諸著鹿脊山際爾開花之
イロメツラシクモ、トリノ
色目列數百鳥之音名束數在杲石住吉里乃
アレラクヨシモ
荒樂苦惜哭

反歌三首 二乃時

ミカノハラク ニノミヤコハ アレニケリ オホミヤヒトノ ウツリイヌレハ
三香原久邇乃京者荒去家里大宮人乃遷去禮者

サクハナノ イロハカハラスモ、シキクニノ オホミヤヒトソ タチカハリヌル
咲花乃色者不易百石城乃大宮人叙立易去流

古今集ナラノ ヤヘノ御哥 フル里トナリニレナラノ都ニモ色ハカハラス春ハ咲ケリ

難波宮作歌一首并短歌

ヤスミシレ ワカオホキミノ アリガヨフナニハノミヤハ イサナ
安見知之吾大王乃在通名庭乃宮者不知魚
トリウミカタヅキテ タニヒロフハマベヲチカミ アサハフルナミノ オト
取海片就而玉拾濱邊乎近見朝羽振浪之聲
サワキユフナギニ
蹈夕薙丹曜合之聲所聆曉之寐覺爾聞者海
ユアカツキノ ケサシノ ムタマイリスニ ウラ
石之盤千乃共絢渚爾波千鳥妻呼葭部爾波
キクヒトノ ミヤクホリシテミニ ハ
鶴鳴動視人乃語丹爲者聞人之視巻欲爲御

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

ケムカアヂスノミヤハ　ミレド　アカヌカモ
食向味原宮者雖見不飽香聞
（上四丁東生郡）

反歌二首

アリカヨフナニハノミヤハ　ウミチカミ　アマツヲトメラカ　ノレフ子ミ
有通難波乃宮者海近見漁童女等之乘船所
ユ見

シホヒレハ　アレベニ　サウアレタツノツマヨヒ　ナケ
塩干者葦邊爾鶴乃妻呼音者宮毛動響
ニ

二

敏馬（ミヌメ）
（万葉如此讀国）

過驚浦（ニ）時作歌一首　并短歌

ヤチホコノ　カミノミヨ　ヨリモ、フネノ　ハツルトマリト　ヤシマクニ
八千桙之神之御世自百船之泊停跡八島國
（日本紀神二三輪ノ明神七名）

モ、フナビトノ　サタメテ助レ　ミヌメノウラハ　アサカセニ　ウラナミ
百船純乃定而師三犬女乃浦者朝風爾浦浪
サワキ　ユフナミニ　タヾモハキヨル　シラナミノ　ヨスルミギハニ
左和寸夕浪爾玉藻者来依白沙清濱部者去
カヘリミレトモアカス　ウベシ助　コソミルヒトコトニ　カタリツギシヒケラシ
還雖見不飽諾石社見人毎爾語嗣偲家良思
（コヽモヽヨトヘ云詞ヲ入テ見ヘキカ）

吉（ヨシ）百世歴而所偲将往清白濱

反歌二首

マソカヽミ　ヌメノウラハ　モ、フネノ　トマリテユクヘキハマニ
真十鏡見宿女乃浦者百船泊而可往濱有七
（ノ字心アリシトモアカスヲモロキ浦ツヾヒ改ム）

ハヽキヨミウラナツカシミ　カミヨヨリ　フネノオホワタ　ノハヽ
濱清浦愛見神世自千船湊六和太乃濱
（ヲダノカサ松トヨメル処ノ今兵庫ト云撫津大ワタ）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47
ガラス使用

857
47

雄畧紀云何内国免鳥戸部
人田辺史伯孫

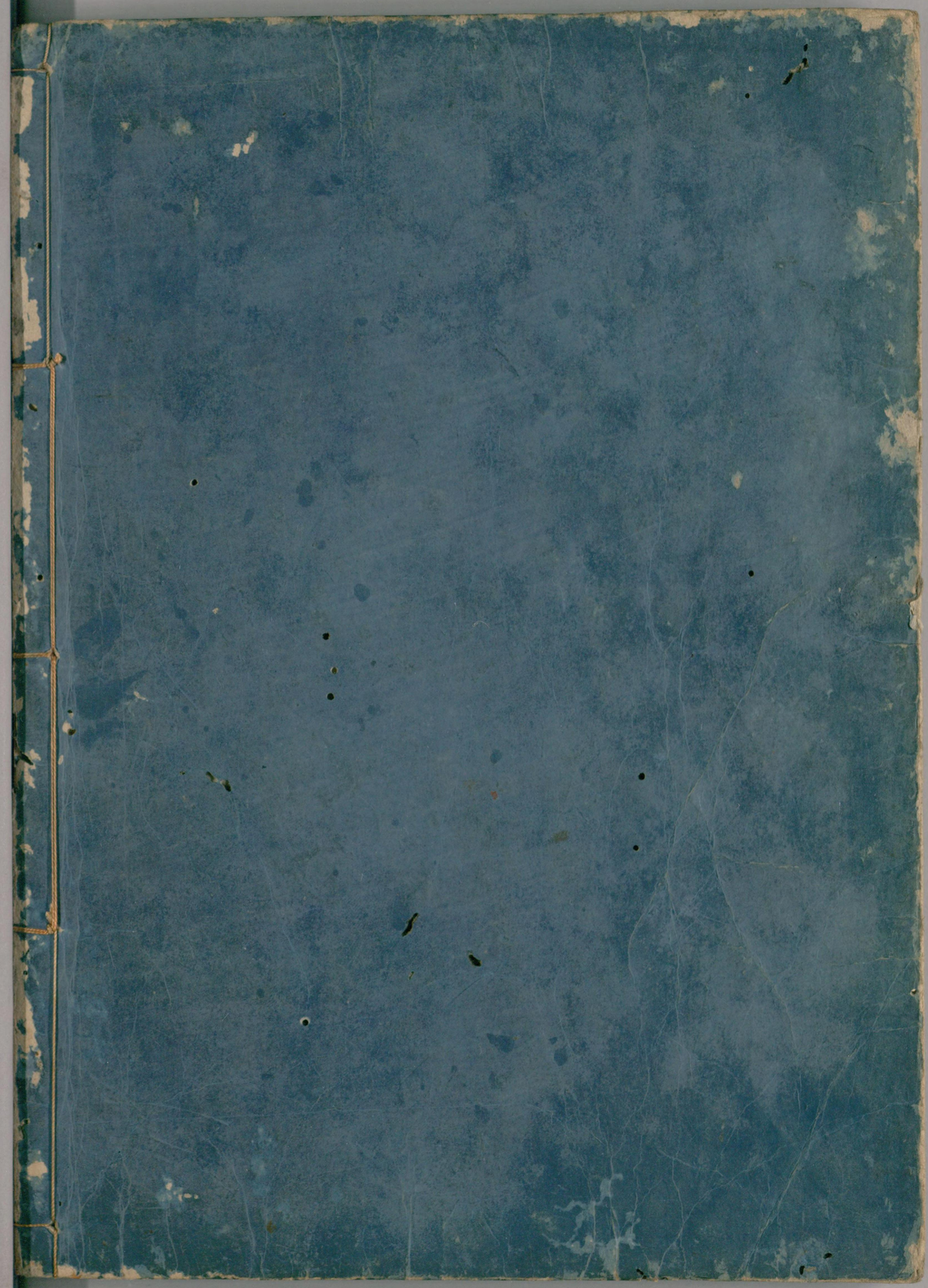
萬葉集巻第六

右二十一首田邊福麿之歌集中出也

（悲二宮子ノ薨故ニシテ但哥ト云ヨリユナタ廿一首ハ田辺雄畧紀ノ史脱字聖武紀ニアリ名ヲ誰彼ト云コトカユニテモヤアラン）

国立国会図書館　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用



国立国会図書館　　タイトル『万葉和歌集』　請求記号 857-47

ガラス使用